

シーボルトの生涯とその業績関係年表Ⅳ (1863～2012年)

石 山 禎 一
宮 崎 克 則

凡 例

- 【1】 *印は主としてシーボルトに関わる人々が出した書簡類などを示す。
○印はシーボルトに関わる事項、または彼が記述した内容および直接相手方に宛てた手紙などを示す。
△印はシーボルトの門人関係などを示す。
◇印は当時の内外の政治・外交・文化などの事項を示す。
なお、人名などの不明箇所には〔?〕を付している。
- 【2】 年表中に見られる書簡類は、主としてフォン・ブランデンシュタイン家（シーボルトの末裔、ドイツのヘッセン州シュルヒテルン市郊外在住）所蔵文書をもとに石山の責任で系統的に整理し、年代順に並べ替えて記載した。これら書簡類には、シーボルトの幅広い人的交流・活動範囲などが十分窺い知ることができるので、すべて掲載することにした。なお、所蔵文書中で年月日が不明なもの、あるいは未記入のもの、また宛先不明の書簡類などは、本年表には記載できないため除いた。

【参考文献】

関係年表は、主に以下の文献を参照して作成した。

- (1) 呉秀三著『シーボルト先生其生涯及功業』吐鳳堂書店 大正15年。
- (2) 日独文化協会編『シーボルト関係書翰集』郁文堂書店 1941年。
- (3) 『上野図書館紀要』第2冊 国立国会図書館支部 上野図書館 1955年。
- (4) 『図説 国民の歴史』1・2 日本近代史研究会 1965年。
- (5) L. B. Holthuis・酒井恒『シーボルトと日本動物誌』学術書出版会 1970年。
- (6) 『参考書誌研究』11号 国立国会図書館参考書誌部 1975年。

- (7) 『シーボルト「フロラヤポニカ」』（解説） 講談社 1976年。
- (8) 『江崎悌三著作集』第1巻 思索社 1984年。
- (9) 『F.ベアト幕末日本写真集』横浜開港資料館 1987年。
- (10) 横田洋一編『横浜浮世絵』有隣堂 1989年。
- (11) シーボルト記念館『鳴滝紀要』1号～第20号 シーボルト記念館 1991～2010年。
- (12) 金井圓『近世日本とオランダ』財団法人放送大学教育振興会 1993年。
- (13) 『シーボルト「日本」』本文・図録 全9巻 雄松堂書店 1997年。
- (14) 箭内健次・宮崎道生編『シーボルトと日本の開国・近代化』続群書類従完成会 1997年。
- (15) フォン・ブランデンシュタイン家所蔵『シーボルト関係文書マイクロフィルム目録』1・2巻 2001年 長崎市教育委員会・シーボルト記念館。
- (16) 『新・シーボルト研究』I・II 八坂書房 2003年。
- (17) 開国150周年記念資料集『江戸の外国公使館』港区郷土資料館 2005年。
- (18) 『異国人の見た幕末明治 JAPAN』新人物往来社 2005年。
- (19) 石山禎一・牧幸一訳『シーボルト日記』八坂書房 2006年。
- (20) 宮崎克則「復元：シーボルト『NIPPON』の配本」（『九州大学総合研究博物館研究報告』3号 2005年），同「シーボルト『NIPPON』の色つき図版」（『九州大学総合研究博物館研究報告』5号 2007年），同「シーボルト『NIPPON』のフランス語版」（『九州大学総合研究博物館研究報告』6号 2008年），同「シーボルト『NIPPON』のロシア語版」（『九州大学総合研究博物館研究報告』8号 2010年）。
- (21) 栗原福也編訳『シーボルトの日本報告』東洋文庫784 平凡社 2009年。
- (22) Dr. Hans Körner: Die Würzburger Siebold. Eine Gelehrtenfamilie des 18. und 19. Jahrhunderts. Leipzig Johann Ambrosius Barth Verlag. 1967. S., 356-557. (Lebensdarstellungen deutscher Naturforscher, hrsg. von der Deutschen Akademie der Naturforscher Leopoldina durch Rudolph Zaunick. Nr.13). : 竹内精一訳『シーボルト父子伝』創造社 1974年。
- (23) ACTA SIEBOLDIANA III. Die Sieboldiana-Sammlung der Ruhr-Universität Bochum, Beschrieben von Vera Schmidt., 1989. OTTO HARRASSOWITZ · WIESBADEN.
- (24) Philipp Franz von Siebold. : Schreib-Kalender für das Schaltjahr 1852.
- (25) Philipp Franz von Siebold. : Geschäfts-und Termin-Kalender für das Schltjahr 1856.
- (26) Philipp Franz von Siebold. : Nederlandsche en Japansche Almanak voor het Jaar 1861.
- (27) Liefer-und Abrechnungsbuch über Nippon und andere große Veröffentlichungen Siebolds für die Jahre 1833-1838.
- (28) Liefer-und Abrechnungsbuch über Nippon und andere große Veröffentlichungen Siebolds für die Jahre 1832-1840.
- (29) Liefer-und Abrechnungsbuch über Bücher und Immobilien für die Jahre 1836-1843, mit

einem Voewort.

- (30) Liefer-und Abrechnungsbuch für die Jahre 1839-1847.
- (31) Philipp Franz von Siebold. : Tägliches Erinnerungs-Buch für alle Stände. 1848-1850.
- (32) Verzeichnis der Subskribenten und Lieferungen zu Nippon, mit einer Zusammenstellung und Pro Memoria durch Alexander von Siebold.
- (33) Philipp Franz von Siebold. : Bücherversendungen nach Russland 1853.
- (34) Aufstellungen etc. letr Subskription auf Werk. Philipp Franz von Siebold's Nippon, Fauna, Flora u.s.w. 1834-1848.
- (35) PHILIPP FRANZ VON SIEBOLD, A Contribution to the Study the Historical Relation between Japan and the Netherlands. The Netherlands Association for Japanese Studies, c/o Center for Japanese Studies, Leiden University 1978. (Philipp Franz von Siebold and the Opening of Japan, 1843-1866) (注：マックリーン論文は、横山伊徳『幕末維新論集 7 幕末維新と外交』吉川弘文館 2001年)。

* (22)~(33)の原本は、ドイツのポフム大学図書館に所蔵されている。

4. 晩年（ヨーロッパ）の活動

1863年（文久3年） 67歳

- * 1月9日（11・20）ジャンヌ・バンフィ（Jeanne Banffy）がシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月10日（11・21）ボンの家族のもとに着く。
- ◇ 1月18日（11・29）ライデンの王立民族学陳列館館長C.レーマンス博士が、草稿『王立シーボルト日本博物館書籍目録』をライデンにて執筆。この日、C.レーマンス博士がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月19日（11・30）園芸家ブルニエール（Francois Burnier）がアレクサンドリア（Alexandria）からシーボルト宛に書簡を送る。同日、ライデンの王立民族学陳列館館長C.レーマンス博士がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月20日（12・1）ファン・プロッセ？（van Prosse）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月25日（12・6）ローネット？（W. M. Rohnet）がセント・ルイス号（St. Louis）船上からシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月26日（12・7）草稿『オランダ外務大臣謁見に関する覚書き』（蘭文）執筆。

- * 1月30日 (12・11) 元出島オランダ商館筆者兼荷倉役・一等官補 G.A.G.バッスラーがバタヴィアからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月3日 (12・15) 元出島オランダ商館筆者兼荷倉役・一等官補 G.A.G.バッスラーがバタヴィアからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月7日 (12・19) ライデンの国立植物学標本館館長ミケル (F. A. W. Miquel) がユトレヒトからシーボルト宛に書簡を送る。
- 2月9日 (12・21) 草稿『日本における力による条約締結までの諸国の動向に関する覚書き』(蘭文)をライデンにて執筆。
- * 2月10日 (12・22) E.J.ブリン書店がライデンからシーボルト宛に請求書を送る。
- 2月11日 (12・23) ヨーロッパ・ホテルにて、オランダ内務大臣 (J.R.トールベッケ) 宛の手紙を書く(注:前掲書『シーボルト先生其生涯及功業』乙編 出島爪哇蘭語文書(原文)444-453, 甲編(訳文)487-489頁参照)。
- * 2月14日 (12・26) L.ロレ書店がパリからシーボルト夫人〔ヘレーネ〕宛に書簡を送る。同日、オランダ内務省次官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月21日 (1・4) L.ロレ書店がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- 2月25日 (1・8) ライデンにて、園芸家 Fr.ブルニエール宛の手紙を書く。
- 2月26日 (1・9) オランダ領インド陸軍の参謀部付名誉少将に昇進。
- 2月27日 (1・10) ライデンにて、書籍商 L.ロレ宛に手紙を書く。
- * 3月1日 (1・12) 園芸家 P.C.スタトニツスキーがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月2日 (1・13) 園芸家 W.L.H.ストリーボッシュがボッシュからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月3日 (1・14) ライデンの王立植物学標本館館長 F.A.W.ミクエルがユトレヒトからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月4日 (1・15) ライデンにて、オランダ外務大臣カテクオチン (Jonkheer Katexochin) 宛の手紙を書く。
- * 3月5日 (1・16) L.ロレ書店がパリからシーボルト宛に請求書を送る。上海駐在オランダ領事 J.クルースが上海からシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月6日 (1・17) ライデンにて、オランダ国王陛下副官宛の手紙を書く。
- 3月9日 (1・20) ライデンにて、オランダ通商会社社長宛の手紙を書く。

- * 同日、元出島オランダ商館長・長崎のオランダ政府特命委員 J.H. ドンケル・クルチウスがデルフトからシーボルト宛に書簡を送る。園芸家スタトニスキーがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月27日（2・9）マックス・コーエン親子書店（Max Cohen & Sohn）がボンからシーボルト宛に新刊案内（広告）と請求書を送る。
- * 3月30日（2・12）元出島オランダ商館筆者兼荷倉役・一等官補 G.A.C. バッスラーがバタヴィアからシーボルト宛に書簡を送る。同日、南オランダの王室御料地兼登記所所長（Directeur der Registratie en Domeinen in Zuidholland）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月31日（2・13）ドイツの公証人カール・フォン・モンシャウ（Carl von Monschau）がボンからシーボルト宛に請求書を送る。
- * 4月1日（2・14）オランダ植民地省がハーグから1月26日付オランダ領東インド総督の決定に関して、シーボルト宛に書簡を送る。植民大臣（J.ラウドン）が出島の印刷事業の創設と維持のための前貸金の総額8,000グルデンを、1863年4月16日以前に払い戻すよう要求する（注：前掲書マククリーン著の訳文『シーボルトと日本の開国』1843-1866年 95頁参照）。
- * 4月4日（2・17）ライデンの王立民族学陳列館館長 C.レーマンス博士がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月6日（2・19）ライデンにて、南オランダの王室御料地兼登記所所長（Directeur der Registratie en Domeinen in Zuidholland）宛の手紙を書く。
- 4月7日（2・20）ライデンにて、王立民族学陳列館館長 C.レーマンス博士宛の手紙を書く。
- * 同日、オランダ内務省がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月8日（2・21）ベルタ・ヴィッヒマン（Bertha Wichmann シーボルトの従兄弟）がコットブス（Cottbus）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月10日（2・23）オランダ政府からの印刷事業に関わる前貸金総額8,000ギルダーの返済金の支払い延長を求め、同年6月30日まで認められる（注：前掲書マククリーン著訳文『シーボルトと日本の開国』1843-1866年 95頁参照）。
- * 同日、元出島オランダ商館長・長崎のオランダ政府特命委員 J.H. ドンケル・クルチウスがデルフトからシーボルト宛に書簡を送る。またオランダ内務省がハーグから

シーボルト宛に書簡を送る。

- * 4月11日（2・24）オランダ内務省がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月12日（2・25）ガンネット（Gannet）がブレスロウ（Breslau）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月13日（2・26）国民勤勉協会関係者のメンデス・ダ・コスタ（Jos. Mendes da Costa）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月17日（2・30）オランダ王子ヘンドリックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月18日（3・1）園芸家ストーム（W.Storm）がデルフトからシーボルト宛に書簡を送る。ライデンの王立民族学陳列館館長C.レーマンス博士がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月19日（3・2）ライデンにて、オランダ内務大臣（J.R.トールバッケ）宛の手紙を書く。
- 4月24日（3・7）アムステルダムにて、デ・コーク（de Kork 元オランダ領東インド総督？）宛とライデンの王立民族学陳列館館長C.レーマンス博士宛の手紙を書く。
- * 4月30日（3・13）ライデンの王立自然史博物館館長・動物学者H.シュレーゲルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月6日（3・19）ライデンの王立植物学標本館館長F.A.W.ミケルがユトレヒトからシーボルト宛に書簡を送る。同日、フォン・デ・リー（von de Rie）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月9日（3・22）ロッテルダムの船主・貿易商A.ホボーケンがロッテルダムからシーボルト宛に見積書を送る。ライデンの気候馴化園とシーボルトの邸宅「ニッポン」の管理者・造園技師J.マターとライデン気候馴化園の庭師A.ハクビールがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月14日（3・27）ロッテルダムの船主・貿易商A.ホボーケンがアムステルダムにて、シーボルトに関する決算書を書く。元出島オランダ商館筆者兼荷役・一等官補G.A.C.パッスラーがバタヴィアからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月15日（3・28）オランダ植民地省がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月17日（3・30）日本で集めたおよそ2,500点のコレクションを、アムステルダ

ムの産業振興会の一室に陳列展示。小冊子『日本国の学術、芸術、産業に関する物品および生産物に関するコレクション展の観覧手引き』（蘭文）をアムステルダムのC.A.スピン社から発行。コレクションの購入をオランダ政府にもちかけるが、政府は売値が高すぎるとして拒否。

- * 5月18日（3・31）オランダ植民地省がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月29日（4・12）園芸家フランソワーズ・ブルニエール（Francois Burnier）がアレクサンドリア（Alexandria）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 6月1日（4・15）ライデンにて、オランダ王子フレデリック宛に手紙を書く。
- * 6月5日（4・19）園芸家W.L.H.ストリイボッシュがボッシュからシーボルト宛に書簡を送る。同日、オランダ内務大臣J.R.トゥールベッケがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月9日（4・23）ジョン・コーマン？（Jon Koman）がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月14日（4・28）オランダの海軍士官・元長崎海軍伝習所教官カッテンディーケがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月18日（5・3）ライデンの王立植物学標本館館長F.A.W.ミケルがユトレヒトからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月20日（5・5）ライデンの王立民族学陳列館館長C.レーマンス博士がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月24日（5・9）ライデンの王立民族学陳列館館長C.レーマンス博士がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月日付不詳，C.A.スピン親子書店がアムステルダムからシーボルト宛に請求書（211.25グルデン）を送る。
- 日本で収集した植物280種以上をライデン気候馴化園に移植。その内の何種類かをライデン大学植物園にも植える。
- 7月1日（5・16）『日本における園芸状態とライデン気候馴化園に輸入され、栽培された有用植物の重要性についての報告書』（仏文）をライデン近郊の邸宅〈ニッポン〉で執筆。同年、ライデンとミュンヘンで発行。
- 7月19日（6・4）ライデンにて、オランダ王子フレデリック宛の手紙を書く。
- △ 8月1日（6・17）箕作阮甫没する（享年64歳）。

- 8月20日（7・7）ヴェルツブルグにて、ロシアのドゥ・イグナティエフ（d' Ignatiew）宛の手紙を書く。草稿『Memorie sur le mouvement le 20 Aout 1863』（仏文）を執筆。
- * 8月31日（7・18）エミール・シュラギントヴァイト（Emil Schlagintweit）がシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月2日（7・20）ヴェルツブルグにて、ロシア海軍大臣コンスタンティン大公（Gros Fursten Constantin）宛の手紙を書く。
- 9月6日（7・24）ヴェルツブルグにて、動物学者ネットルマン（G. F. Nettermann）宛の手紙を書く。同日、ウィットキャンプ（C. H. Witkamp）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月9日（7・27）ロッテルダムの船主・貿易商 A.ホボーケン親子商会在ロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月14日（8・2）元出島オランダ商館筆者兼荷倉役・一等官補 G.A.C.バッスラーがバタヴィアからシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月25日（8・13）ヴェルツブルグにて、ロシアのドゥ・イグナティエフ宛の手紙を書く。
- * 10月4日（8・22）ロシアのイグナティエフがサンクト・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月7日（8・25）依願退職を承認され、年金生活に入る（11月1日付でオランダ在職40年を称賛され年金4,000グルデンが支給される）。
- * 同日、オランダ国王ヴィレム三世がシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月9日（8・29）『オランダの現代国家』の写しをメモする。
- * 10月10日（8・30）スピン親子（C. A. Spin, Zoon）書店がシーボルト宛に請求書を送る。
- * 10月13日（9・1）動物学者 G.F.ネットルマンがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月18日（9・6）国民勤勉協会のフォン・エイレ（J. A. von Eijle）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月19日（9・7）動物学者 G.F.ネットルマンがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

- *10月30日（9・18）オランダ植民大臣（J.ラウドン）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月31日（9・19）アンソニー・クッシム（Anthony Kussim）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月8日（9・29）「日本博物館の展覧会」に関わる諸経費の請求書をシーボルト宛に送る。
- *11月13日（10・3）ロッテルダムの船主・貿易商 A.ホボーケンがアムステルダムからシーボルト宛に、ヴェルツブルグへの送り状（リスト化されたシーボルトの荷物の送り状：送料166.50グルデン）
- *11月14日（10・4）ベールセマ（Boersema）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月15日（10・5）バルカ（J. B. Balka）がプラグ（Prague）からシーボルト宛に書簡を送る。クラヴェミーヴェン？（J. K. Klavemyven）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月16日（10・6）ロッテルダムの運送業者 J.P.デ・コックがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月23日（10・13）ライデン気候馴化園の庭師 A.ハクビイルがライデンからシーボルトと園芸家 F.ブルニエール宛に請求書を送る。
- *11月26日（10・16）オランダ内務大臣秘書官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月28日（10・18）ライデンの王立民族学陳列館館長 C.レーマンス博士がシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月3日（10・23）ロッテルダムの船主・貿易商 A.ホボーケンがロッテルダムからシーボルト宛に見積書を送る。
- *12月9日（10・29）園芸家ルイズ・ストリイボッシュがボッシュからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月10日（10・30）医師カール・フォン・シーボルト博士（Dr. Carl von Siebold 大叔父ダミアン・フォン・シーボルトの長男）がハイデルベルク（Heidelberg）からシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月14日（11・4）フデリリック・ミュラー（Frederik Muller）書店がアムステル

ダムからシーボルト宛に書簡を送る。

- * 12月23日 (11・3) ロッテルダムの船主・貿易商 A.ホボーケンがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 12月28日 (11・8) コイツアー (L. M. Keuzer) がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 月日不詳, ゲブローデス・ファン・デル・フック (Gebroedes van der Hoek) 書店がライデンからシーボルト宛に請求書を送る。
- 『1863年。ライデンにおけるフィリップ・フランツ・フォン・シーボルトの気候馴化園で栽培された日本と中国の植物と種子。説明付き目録と市価：日本における園芸状態と、ライデンの Ph. Fr. ドゥ・シーボルト氏の気候馴化園と有用植物と観賞植物の重要性についての報告書』(仏文・ラテン語) アムステルダムの C.A. スピンおよびフィブス社発行。

◇洋書調所を開成所と改称。

◇下関事件。

◇薩英戦争。

◇リンカーン奴隷解放宣言。

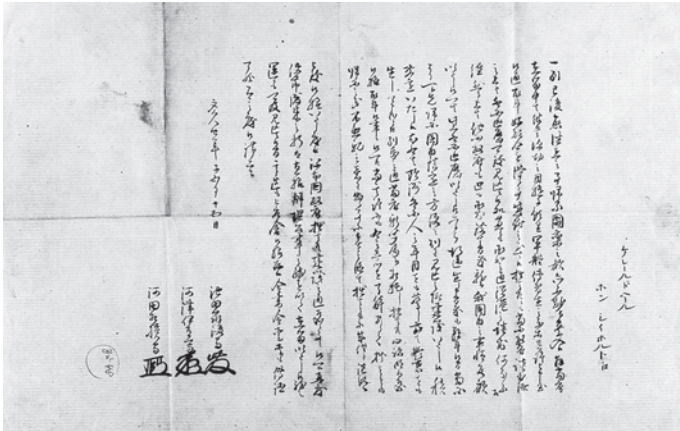
1864年 (元治元年) 68歳

- * 1月12日 (12・4) ファン・ライク (J. A. van Lijk) がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月14日 (12・6) オランダ植民地省事務次官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 2月1日 (12・24) ライデンにて、国民勤勉協会関係者 Jos.メンデス・ダ・コスタ宛の借用書メモする。
- 2月3日 (12・26) ライデンにて、園芸家フランソワーズ・ブルニエール宛の手紙を書く。
- * 2月25日 (1・18) オランダ内務大臣 J.R. トールベッケがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月29日 (1・22) ライデンの王立民族学陳列館館長 C.レーマンス博士がシーボルト宛に書簡を送る。

- 3月1日 (1・23) ハーグにて、オランダ植民大臣 (J.ラオドン) 宛の手紙を書く。
- * 3月15日 (2・8) ヴェルツブルグ宮廷会計士 J.ヤコブ・フォン・ヒルシュがヴェルツブルグからシーボルト宛に領収書を送る。
- * 3月18日 (2・11) ロシア使館関係者のエミリー・フィン (Emily Fynn) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月21日 (2・14) 園芸家デ・アルマ (H. W. de Alma) がマルセイユからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月25日 (2・18) 園芸家デ・アルマがマルセイユからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月1日 (2・25) 園芸家ルイズ・ファン・ハウテ (Louis van Houtte) がゲントからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月10日 (4・5) ライデンにて、オランダ内務大臣 (J.R.トールバッケ) 宛の手紙を書く。
- * 4月16日 (3・11) ロッテルダムの船主・貿易商 A.ホボーケンがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月18日 (3・13) 草稿『オランダ植民大臣閣下宛上奏書』(蘭文) をライデンにて執筆。シーボルトは江戸幕府での自らの地位に伴う損失と、召喚されたときに被った損失に対する補償を要求する (注: 前掲書マクレーン著の訳文『シーボルトと日本の開国』1843-1866年 95頁参照)。
- バイエルン国王マキシミアン二世がオランダ滞在中にライデン・ハーグ・アムステルダムの民族学博物館を視察。ライデンではシーボルトの博物館を訪問。シーボルト・コレクションに興味を示し購入を希望するが、数ヵ月後国王の死亡で実行に移すことができず。
- 春、オランダの官職を辞してオランダを去り、メナーニア学生団の歓迎を受けてヴェルツブルグに移る。インゴルシュタットの屋敷 (Ingolstadter hof) に居住。
- * 4月21日 (3・16) ロッテルダムの船主・貿易商 A.ホボーケンがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- ◇ 4月24日 (3・19) リスト「国際植物学会1864年4月24日参加者名簿」・案内「植物学会。プロジェクトの規定、大会プログラム」(印刷物) を受け取る。
- * 4月26日 (3・21) 園芸家 W.L.H.ストリイボッシュがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

- * 4月27日（3・22）フランス外務省がパリからシーボルト宛に書簡を送る。同日、ドロウイン・ドゥ・リュイス（Drouyn de L'huys）がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月3日（4・4）ライデンの気候馴化園の庭師 A.ハクビールがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月4日（3・29）家族と共にトイフェルストール横町（Teufelstorgasse）の住宅へ移る。
- * 同日、ペリジュエール（M. Pelissier）がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月5日（3・30）ゲントの商工業博物館学芸員ベルナルディン（Bernardin）がゲントからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月7日（4・2）ヴェルツブルグにて、オランダ植民地省事務次官宛の手紙を書く。
- * 同日、オランダ植民地省事務次官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。ライデン気候馴化園の庭師 A.ハクビールがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月日付不詳、ヴェルツブルグからパリに行き、遣欧使節正使・外国奉行の池田筑後守長ながおきの対仏交渉を周旋し助言する。
- 5月日付不詳、遣欧使節同行の三宅秀、マルセユにてシーボルトに会い、シーボルト再来日時に父長齊が貸した「鉱物標本」（20～30箱）の返却を求める。数年後、外務当局の手を経て僅かに3箱ほど戻る。
- 5月8日（4・3）パリにて、オランダ通商会社社長宛の手紙を書く。
- * 5月9日（4・4）ロシア帝国科学アカデミー地学博物館学芸員シュラーダー（C. Schrader）がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。医師カール・フォン・シーボルト博士（大叔父ダミアン・フォン・シーボルトの長男）がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。パリのベンジャミン・デュプラ（Benjamin Duprat）書店がパリからシーボルト宛に請求書を送る。
- * 5月11日（4・6）ヴェルツブルグ宮廷会計士ヤコブ・フォン・ヒルシュ（Jacob von Hirsch）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月14日（4・9）ヴェルツブルグ宮廷会計士 J.ヤコブ・フォン・ヒルシュがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。同日、デ・ハルトーグ？（de Hartog）がシーボルト宛に招待状・短信を送る。

- * 5月20日（4・15）園芸家 W.L.H.ストリイボッシュがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月21日（4・16）ゲントの園芸家ルイーゼ・ファン・ハウテがゲントからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月25日（4・20）ロッテルダムの船主・貿易商 A.ホボーケンがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月26日（4・21）オランダ国務大臣リヒテンノード（M. Lightenoed）がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月28日，パリの帝立気候馴化動物学協会秘書官デュバン（E. Dupin）が，パリからシーボルト宛に同協会設立趣意書（1854年2月10日設立）と同協会開催の招待状を送る。
- 5月31日（4・26）ミュンヘンにて，ゲントの園芸家ルーズ・ファン・ハウテ宛に手紙を書く。
- * 同日，医師カール・フォン・シーボルト博士（大叔父ダミアン・フォン・シーボルトの長男）がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。ライデン気候馴化園の庭師 A.ハクビイルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月日付不詳，門人三瀬周三がアレクサンダー・フォン・シーボルトに書簡を送る。
- 6月1日（4・27）遣欧使節正使・外国奉行の池田筑後守長^{ながおき}宛に意見書を提出する。
- * 同日，スタニスラス・ジュリアンがパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月6日（5・3）ロシアのムクホルトフ？（Moukhortoff）がサンクト・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月12日（5・9）ライデン気候馴化園の庭師 A.ハクビイルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 6月14日（5・11）ヴェルツブルグにて，池田筑後守長^{ながおき}宛（注：ロジャ・メルチン「シーボルトの自筆書簡」Cosnica 地域研究6 参照）とオランダ植民地省宛の手紙を書く。
- * 6月17日（5・14）アンドレ（E. Andre）がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月18日（5・15）遣欧使節正使・外国奉行の池田筑後守長^{ながおき}，同副使・外国奉行の河津伊豆守^{すけくに}祐邦，同使節監査役の河田相模守^{りょう}照がパリからシーボルト宛に書簡（オランダ語・日本語）を送る。



〔図103〕「池田筑後守，河津伊豆守，河田相模守からシーボルト宛書簡の一部」
（フォン・ブランデンシュタイン家所蔵）

- * 6月19日（5・16）ライデンの気候馴化園の庭師 A.ハクビイルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。同日，ライデンの王立民族学陳列館館長 C.レーマンス博士がライデンからシーボルト宛に招待状・短信を送る。
- ◇ 6月20日（5・17）遣欧使節正使・外国奉行の池田筑後守長発，^{ながおき}フランスとの間にパリ約定を結ぶ。
- * 6月24日（5・21）ロッテルダムの船主・貿易商 A.ホボーケンがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月26日（5・23）遣欧使節正使・外国奉行池田筑後守長発がパリからシーボルト宛に書簡（オランダ語・日本語）を送る。遣欧使節御手附・翻訳御用出役山内駿河守六三郎がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月30日（5・27）ライデンの気候馴化園の庭師 A.ハクビイルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- ◇ 月日不詳，遣欧使節正使池田筑後守長発，^{ながおき}副使河津伊豆守祐邦，^{すけくに}監査役河田相模守熙連名で，幕府に対しシーボルト雇用の意見書を提出する。
- * 7月1日（5・28）フランス国務大臣ヴァイロウ（Vaillaux）がパリのチュイルリー宮殿（Paris. Palais de Tuileries）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月3日（5・30）ヴェルツブルグにて，フランス国務大臣ヴァイロウ宛に手紙を

書く。

*同日、オランダ内務大臣 J.R. トールベッケがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

○7月9日（6・6）ギーベルシュタット-ダルスシュタット（Giebelstadt-Darstadt）宛に、エドウィン・フォン・ザーベル（Edwin von Zabel）男爵死亡の弔文下書きを書く。

*同日、園芸家クロー（Croux）がスオウ（Sceaux）からシーボルト宛に書簡を送る。

○7月12日（6・9）キッシンゲン（Kissingen）にて、オランダ内務大臣（J.R. トールベッケ）宛の手紙を書く。

*7月16日（6・13）アルマンド・ティーレンス（Armand Thielens）がベルギーからシーボルト宛に書簡を送る。

*7月19日（6・16）ライブライン？（A. Leiblein）がレーゲンスブルグ（Regensburg）からシーボルト宛に書簡を送る。

*7月20日（6・17）ライデンの王立民族学陳列館館長 C. レーマンス博士がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

*7月23日（6・20）オランダ内務大臣 J.R. トールベッケがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

○7月26日（6・23）ヴェルツブルグにて、遣欧使節正使・外国奉行池田筑後守長ながおき宛の手紙を書く。

○7月30日（6・27）ヴェルツブルグにて、フランスの国务大臣ヴァイロウ（Vaillaux）宛の手紙を書く。

*8月4日（7・3）ファン・アルフェン（van Alphen）がシーボルト宛に書簡を送る。

*8月5日（7・4）ミュンヘン大学植物学教授フォン・マルティウスがブルッケナウからシーボルト宛に書簡を送る。

*8月8日（7・7）ゲントの商工業博物館学芸員ベルナルディン（Bernardin）がメーレ・ル・ガン（Melle-les Gand）からシーボルト宛に書簡を送る。

*8月9日（7・8）ライデンの気候馴化園庭師 A. ハクビールがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

*8月11日（7・10）医師カール・フォン・シーボルト博士（大叔父ダミアン・フォン・シーボルトの長男）がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。

- 8月15日（7・14）草稿『オランダ内務大臣（J.R.トールベッケ）宛公開状』（蘭文）をヴェルツブルグで執筆。
- * 同日、アウグスト・シュミット（August Schmidt）がシュヴァインフルト（Schweinfurt）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月16日（7・15）ライデンの気候馴化園庭師 A.ハクビイルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。ルイズ・ヴィラン（Gebr. Louis Villain）がエルフルト（Erfurt）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月18日（7・17）ライデンの気候馴化園庭師 A.ハクビイルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月22日（7・21）遣欧使節の徒目付（幕臣）斎藤次郎太郎がシャトウ・ドゥ・アンジェルムンスター（Chateau d' Ingelmunster フランドル地方西部ベルギー）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 8月24日（7・23）ミュンヘンにて、オランダ内務大臣（J.R.トールベッケ）宛の手紙を書く。
- * 8月29日（7・28）プレゲル（E. Pregel）がサンクトペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 8月日付不詳、ヴェルツブルグにて、オランダ内務大臣（J.R.トールベッケ）宛の手紙を書く。
- * 9月3日（8・3）ヴェンドランド（A. Wendland）がスターンベルグ近郊のベルンリード（Bernried bei Starnberg）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月8日（8・8）バイエルン国王マキシミリアン二世の後継者ルートヴィヒ二世がミュンヘンから短信を送り会見。シーボルト収集のコレクションをバイエルン王国への売却を提案したが実現せず。
- * 同日、ミュンヘン大学植物学教授フォン・マルティウスがポスト・ムルナウからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月14日（8・14）遣欧使節の徒目付（幕臣）斎藤次郎太郎がシャトウ・ドゥ・アンジェルムンスター（フランドル地方西部ベルギー）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月15日（8・15）ライデンの気候馴化園の庭師 A.ハクビイルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

- * 9月17日（8・17）エルネッテ・トゥレンドヴィツ（Ernetta Turedwitz）がニュルンベルグ（Nurnberg）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月18日（8・18）元オランダ内務大臣シンメルペンニク・ファン・デル・オイ・ファン・デ・ポル男爵（W. H. Baron Schimmelpennick van der Oye van de Poll）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月24日（8・24）遣欧使節の徒目付（幕臣）斎藤次郎太郎がシャトウ・ドゥ・ユージェルムンスター（フランドル地方西部ベルギー）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月30日（8・30）カール・ブルッヒカード（Carl Burchkard）がアポルダ（Apolda）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月1日（9・1）ラ・フクシネ（Societe Fuchsine）協会がリヨンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月3日（9・13）ライデンの気候馴化園の庭師 A.ハクピールがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月4日（9・4）ルイズ・ヴィラン（G. Louis Villain）がヴィラ・メルチ（Villa Melzi）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月5日（9・5）フォン・イルツェ（von Itse）男爵がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。バッハマイヤー（A. Bachmaier）がミュンヘンからシーボルト宛に短信を送る。
- * 10月6日（9・6）バイエルン科学アカデミー総裁フォン・リーヴィッヒ（Justus Frhr von Liebig）夫妻がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月7日（9・7）陸軍少将フォン・スピッネン（von Spinnen）がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月18日（9・18）ヴェルツブルグにて、ライプツィヒのリストおよびフランケ社宛の手紙（出版関係について）を書く。
- * 同日、ゲオルグ・サイツ商会（Georg Seitz & Co）がニュルンベルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月22日（9・22）ウィルヘルミーネ・フォン・ガーゲルン（シーボルトの義弟）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月24日（9・24）パリにて、ライデンのフクシネ協会会長宛の手紙を書く。
- 11月1日（10・2）ヴェルツブルグにて、バイエルン国王（ルートヴィヒ二世）宛の手紙を書く。

- *11月4日（10・5）カール・フォン・エストルフがシーボルト宛に書簡を送る。
- 11月10日（10・11）ヴェルツブルグにて、閣下宛（注：氏名不詳）に著書『日本』第8冊分を送る旨の手紙を書く（注：前掲書『参考書誌研究』第11号 14-15頁および『上野図書館紀要』Vol. 1, No.2 iii頁参照）。
- *11月13日（10・14）ライデンの気候馴化園の庭師 A.ハクビイルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 11月23日（10・24）ライデン（気候馴化園）にて、A.ハクビイルと連名で園芸家 Fr. バニエール宛に請求書を送る。
- 11月29日（11・1）日記風のメモを書く。
- *11月30日（11・2）ライデンの気候馴化園の庭師 A.ハクビイルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月1日（11・3）コッタシェ書店（Cott' ascher Buchhandlung）がシーボルト宛に請求書（128.45グルデン）を送る。
- *12月9日（11・11）Fr.フライシャー書店がシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月4日（11・6）レアンドレ・シュレーゲル（Leandre Schlegel）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月12日（11・14）ヴェルツブルグにて、オランダ内務省宛とオランダ植民大臣（ゴルウィン Gollewin）宛の手紙を書く。
- *12月13日（11・15）ウイルヘルミーネ・フォン・ガーゲルン（シーボルトの義弟）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月14日（11・16）ライデンの気候馴化園の庭師 A.ハクビイルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月19日（11・21）アルゲマイネ・ツァイトウング（Allgemeine Zeitung）新聞社のコルブ（H. Kolb）がアウグスブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月21日（11・23）ゲオルグ・ザイツ商会在ニュルンベルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月22日（11・24）ライデンの気候馴化園の庭師 A.ハクビイルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月23日（11・25）バイエルン王立博物館館長モーリッツ・ワーグナー（Moritz Wagner）がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。

- *12月24日（11・26）オランダ植民地省事務次官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月28日（11・30）オランダ植民地省事務次官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月30日（12・2）バッハ博士（Dr. M. Bach）がボッパルト（Boppard）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月31日（12・3）ハーレムからの「1865年アムステルダムにおける植物万博開催案内」（印刷物）と招待状を受け取る。
- オランダのシーボルト・コレクションは、王立民族学陳列館館長C.レーマンス博士の管理下でライデンのホーヘヴールトで展示される。〈王立民族学博物館と称す〉。
- 日本の内政不安が強くなるにつれ、問題の多い日本の政治情勢についてアウグスブルグ発行の新聞「Allgemeine Zeitung（一般新聞）」に論文『日出る国日本の政治的視野における展望』を発表（以下の各号の付録，10月14日288号。10月15日289号。10月23日297号。10月24日298号。10月25日299号。10月30日304号。11月3日308号。特別号付録11月23日328号。諸号付録11月25日330号。12月1日336号。特別付録12月7日342号。翌年（1864年）12月17日352号。翌々年（1865年）1月4日4号まで，13回にわたって連載する。
- アムステルダムで陳列展示のコレクションをヴェルツブルグに移す。同地の王立マックス・シューレ（1856年創立の高等学校）大講堂で「日本博物館」を開設。小冊子『日本博物館の概要と所見』（独文）を執筆。フランクフルトのナウマン印刷所から1864年～66年頃出版。
- シュヴァインフルト所在，博物学協会会員。
- サンクト・ペテルスブルグ所在，ロシア園芸学学会会員。
- パリ所在，帝立気候馴化動物学協会名誉会員。
- アンジェル所在，メーン・エ・ロワール県のリンネ協会正会員。
- ヴェルツブルグ所在，フランケン園芸協会名誉会員。
- ◇池田屋事件。
- ◇禁門の変。
- ◇四国艦隊下関砲撃事件。
- ◇第1次幕長戦争。

1865年（慶応元年） 69歳

- 1月1日（12・4）ヴェルツブルグにて、ロッテルダムの船主・貿易商 A.ファン・ホボーケン宛の債務完済証明についてメモする。
- * 同日、ライデン気候馴化園庭師 A.ハクビルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月6日（12・9）ライデン気候馴化園庭師 A.ハクビルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月7日（12・10）オランダ植民地省事務次官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月16日（12・19）オランダ内務省がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月17日（12・20）ライデン気候馴化園庭師 A.ハクビルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月18日（12・21）ヴェルツブルグにて、オランダ植民大臣（ゴルウィンGollewin）宛の手紙を書く。
- 1月23日（12・26）ヴェルツブルグにて、バイエルン王国枢密官フォン・ベゴルド（G. von Begold）宛の手紙を書く。
- * 1月29日（1・3）バイエルン王国枢密官 G.フォン・ベゴルドがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 2月3日（1・8）ヴェルツブルグにて、バイエルン王国枢密官 G.フォン・ベゴルド宛に手紙を書く。
- * 2月8日（1・13）ルイズ・ヴィランがベルラギオ？（Bellagio）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 2月10日（1・15）ヴェルツブルグにて、アウグスブルグのアルゲマイネ・ツァイトゥング新聞社編集部（H.コルブ）宛の手紙を書く。
- * 同日、フーバー・フレレスおよびシー（Ch. Huber freres et Cie）商會がヒイエレ（Hyere）からシーボルト宛に種子価格表送付についての書簡を送る。ライデンの気候馴化園の庭師 A.ハクビルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月日付不詳、ルイズ・ヴィランがベルラギオ？からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月5日（2・8）ライデン気候馴化園庭師 A.ハクビルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

- * 3月9日 (2・12) アルゲマイネ・ツァイトゥング新聞社編集部コルブ (H. Kolb) がアウグスブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月10日 (2・13) バイエレン王国枢密官 G.フォン・ベゴルドがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月20日 (2・23) ライデンにて、オランダ植民大臣 (ゴルウィン) 宛の手紙を書く。
- * 3月23日 (2・26) アルテンホファー博士? (Dr. Altenhofer) がアウグスブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月27日 (3・1) ライデンにて、ライデンの気候馴化園の庭師 A.ハクビイル宛に手紙を書く。
- * 同日, E.アンドレがパッシー (Passy) からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月28日 (3・2) ライデンの王立民族学陳列館館長 C.レーマンズ博士がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月29日 (3・3) デ・コーニング商会 (de Coningh & Co) がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。ライデンの王立民族学陳列館館長 C.レーマンズ博士がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月30日 (3・4) ハウステッター (Haustetter) がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- ◇ 月日不詳, 小冊子『1865年春の植物展カタログ』(印刷物), 同『産物の展示案内プログラム』(印刷物) 受け取る。
- * 4月1日 (3・6) カロリーネ・レグレール・ダーニス (Caroline Lrgrelle Dahnis) がベルヘマ (Berchem) からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月4日 (3・9) ライデンのファン・デル・ブーン・メッシュ教授 (Prof. A. H. van der Boon Mesch) がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月8日 (3・13) H.ナロップがクーヘッセンのホンブルグ付近のニーダーバイシェイン (Niederbeisheim bei Homburg in Kurhessen) からシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月23日 (3・28) 草稿『日本商工学校設立計画』(仏文) 執筆。
- 4月29日 (4・5) ハーグにて、オランダ内務省宛の手紙を書く。
- 5月4日 (4・10) ライデンにて、オランダ通商会社宛の手紙を書く。

- 5月5日（4・11）ライデンにて、オランダ通商会社ファン・ボッセ（van Bosse）宛の手紙を書く。
- *同日、オランダ内務省がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月6日（4・12）ライデンにて、オランダ植民大臣（ゴルウイン）宛の手紙を書く。
- *5月8日（4・14）エンスリー（E. Enslie）がデルフト近郊のルスヴィク（Rustwyk by Delft）からシーボルト宛に書簡を送る。
- *5月9日（4・15）ファン・ヴェッケヘルリン（W. van Weckherlin）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *5月14日（4・20）遣欧使節の徒目付（幕臣）斎藤次郎太郎がシャトウ・ドゥ・アンジェルムンスターからシーボルト宛に書簡を送る。
- *5月18日（4・24）アムステルダムのオランダ通商会社がシーボルト宛に書簡を送る。
- *5月19日（4・25）ライデン気候馴化園庭師 A.ハクビイルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。ヴェルツブルグ宮廷会計士 J.ヤコブ・フォン・ヒルシュがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。オランダ植民大臣（ゴルウイン）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *5月22日（4・28）ゲルゼル？（J. R. Gersel）がティール（Tiel）からシーボルト宛に書簡を送る。
- *5月24日（4・30）ライデン気候馴化園園芸家 A.ハクビイルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *5月25日（5・1）遣欧使節の徒目付（幕臣）斎藤次郎太郎がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- *5月27日（5・3）オランダ内務大臣 J.R. トールベッケがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月28日（5・4）ミュンヘンにて、オランダ植民地省事務次官宛の手紙を書く。
- *5月29日（5・5）製鉄所および軍制調査の遣欧使節正使・外国奉行柴田日向守なか剛たけ中がパリ？からシーボルト宛に書簡を送る。
- *5月日付不詳、ルボウ（Leboux）がブリュッセル（Brüssel）からシーボルト宛に書簡を送る。

- * 6月1日（5・8）J.G.コタツシエ書店がシュトゥットガルトからシーボルト宛に請求書を送る。
- * 6月2日（5・9）遣欧使節徒目付・幕臣の斎藤次郎太郎がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月8日（5・15）遣欧使節の御手附翻訳御用出役・外国奉行山内駿河守六三郎がパリ？からシーボルト宛に書簡（日本語）を送る。
- 6月25日（閏5・3）ミュンヘンにて、草稿・メモ『幕府老中覚え』を執筆。
- * 6月28日（閏5・6）オランダ植民大臣（ゴルウィン）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月15日（閏5・23）ミュンヘンにて、オランダ植民大臣（ゴルウィン）宛の手紙を書く。
- 7月16日（閏5・24）ミュンヘンにて、オランダ植民大臣（ゴルウィン）宛の手紙を書く。
- * 7月24日（6・2）Fr.フライシャー書店がライプツィヒからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月28日（6・6）Fr.フライシャー書店がライプツィヒからシーボルト宛に証書を送る。
- * 8月26日（7・6）ブリュッセル王立リンネ協会がブリュッセルからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月28日（7・8）ブリュッセル王立リンネ協会がブリュッセルからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月29日（7・9）ブリュッセル王立リンネ協会がブリュッセルからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月31日（7・11）Fr.フライシャー書店がライプツィヒからシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月初旬パリに旅行。
- 9月7日（7・18）・9日（7・20）パリにて、草稿『日記風メモ』・『柴田日向守来訪に関するメモ』（独文）執筆。柴田日向守宛に手紙を書く。
- * 9月8日（7・19）サンクトペテルブルグ植物園園長レーゲル（E. Regel）がシーボルト宛に書簡を送る。

- 同月、パリで3度目の日本旅行を計画。旅行は11月、遅くとも翌年1月開始予定で計画。
- * 9月20日（8・1）ゲオルグ・ザイツ商会がニュールンベルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月29日（8・10）ゲオルグ・ザイツ商会がニュールンベルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月30日（8・11）ゲオルグ・ザイツ商会がニュールンベルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月日付不詳、ナポレオン三世に謁見。
- 10月12日（8・23）パリにて、バイエルン王国商工大臣宛の手紙を書く。
- * 同日、バイエルン王立博物館館長モーリッツ・ワーグナーがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。マキシム？（C. J. Maxim）がサント・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月15日（8・26）パリにて、シャトウ・ドゥ・アンジェルムンスター（Chateau d' Ingelmunster フランドル地方西部ベルギー）のモンブラン伯爵（Comte de Mont-blanc）宛の手紙を書く。翌日、同手紙の草稿を執筆。
- * 10月16日（8・27）ハウステッターがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月18日（8・29）ヴェルツブルグにて、ライプツィヒのリスト＝フランケ書店（List & Francke）宛に『日本動物誌』（Fauna Japonica）に関する手紙を書く（注：前掲書『参考書誌研究』第11号 15-16頁および前掲書『上野図書館紀要』Vol. 1 No. 2 iii頁 参照）。
- * 10月21日（9・2）リスト＝フランケ書店がライプツィヒからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月22日（9・3）シャトウ・ドゥ・アンジェルムンスター（フランドル地方西部ベルギー）のモンブラン伯爵がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月24日（9・5）園芸家 W.L.H. ストリイポッシュとライデンの気候馴化園の庭師 A.ハクビールがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月25日（9・6）ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S. ミンシングルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月30日（9・11）ヨーゼフ・ハルダー（Joseph Halder）がアンベルグ（Amberg）

からシーボルト宛に書簡を送る。

- 10月日付不詳，ライデンにて，トゥヴェルディアンスキー（Twerdiansky）宛の手紙を書く。
- *11月3日（9・15）ヨーゼフ・ホルダーがアンベルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月5日（9・17）リスト＝フランケ書店がライプツィヒからシーボルト宛に書簡を送る。
- 11月6日（9・18）草稿『国際日本商工振興協会設立計画』（仏文）パリにて執筆。
- *同日，ライデン気候馴化園およびシーボルトの邸宅「ニッポン」管理者・造園技師ヤコブ・マター（Jacob Mater）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。ジグムント・リーブレヒト（Sigmund Liebrecht）がブレスロウ（Breslau）からシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月7日（9・19）ラ・フクシネ協会会長がリヨンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月13日（9・25）リスト＝フランケ書店がライプツィヒからシーボルト宛に書簡を送る。ゲオルグ・シュヴァルツ（Georg Schwarz）がウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月15日（9・27）ハウステッターがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 11月16日（9・28）草稿『国際日本商工振興協会』（仏文）パリにて執筆。
- *11月24日（10・7）園芸家 W.L.H.ストリイボッシュがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 11月26日（10・9）小冊子『日本国産業および商業開発のための国際的会社の企画』（仏文）パリにて印刷。
- *11月28日（10・11）リスト＝フランケ書店がライプツィヒからシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月12日（10・25）会則『日本における商工業に関する国際協会会則』（仏文）印刷。
- 12月13日（10・26）案内書『国際日本商工振興協会』（仏文）及び『日本商工学校設立基金概要』（仏文）印刷。
- *12月16日（10・29）リスト＝フランケ書店がライプツィヒからシーボルト宛に書簡を送る。

- *12月20日 (11・3) ゲオルグ・ザイツ商会在ニュールンベルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月21日 (11・4) リスト＝フランケ社がライプツィヒからシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月31日 (11・14) パリにて、ヴェルツブルグ市参事会宛の手紙を書く。
- *月日不詳、ライデンの気候馴化園の庭師 A.ハクビイルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- フランスのレジョン・ドゥ・ヌール勲章勳四等を受ける。
- サウス・ケンシントン (South Kensington) 所在、王立園芸協会名誉会員。
- ベルン所在、スイス園芸学会会員。
- ブリュッセル所在、王立リンネ協会会員。
- アントワープ所在、王立農業および植物学協会会員。
- シュトゥットガルト所在、ヴェルテンベルク (Württemberg) 花卉栽培および造園協会会員。
- 『フォン・シーボルトの日本博物館に関する概要と覚書』(独文) フランクフルト・アム・マイン社発行 (1864-1866年頃?)。
- ◇開成所『万国公法』刊。
- ◇英米仏蘭の四国、日本の内乱不干渉を決議。

1866年 (慶応2年) 70歳

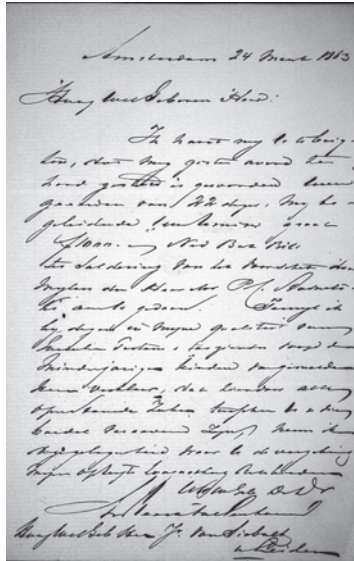
- 春、パリに赴く。フランスの文豪アルフォンス・ドーデー (Alphonse Daudet) に会い、自らの日本研究に関して語る。
- 1月9日 (11・23) パリにて、M.大臣宛 (注: 氏名不詳) の手紙を書く。
- 1月18日 (12・2) パリにて、フランス外務省宛の手紙を書く。
- *1月28日 (12・12) カーン? (Cahn) がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- *2月5日 (12・20) S.レーベン親子商会 (S. Leven et Sohn) がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *2月16日 (1・2) ハウステッターがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *2月19日 (1・5) フランス外務省がパリからシーボルト宛に書簡を送る。フランス外務省所属ドロウイン・ドゥ・リュース (Drouyn de L'huys) がパリからシーボ

ルト宛に書簡を送る。

- * 2月22日（1・8）園芸家ヴィルヘルム・ゴールドンベルグ（Wilhelm Goldenberg）がエルベルフェルト（Elberfeld）からシーボルト宛に、シーボルト70歳誕生の祝電を送る。ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシンゲルとハウステッターがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月1日（1・15）ヴェルツブルグにて、フランス外務大臣宛の手紙を書く。
- * 同日、オランダ植民地省事務次官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月5日（1・19）フリッツ・レムレインがマインツからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月7日（1・21）ライデン気候馴化園庭師 A.ハクビイルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。同日、バイエルン王国枢密官 G.フォン・ベゴルドがミュンヘンからシーボルト宛に送る公式書簡を書き写す。
- * 3月10日（1・24）オランダ植民地省事務次官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月12日（1・26）バイエルン中央絵画館管理部がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月14日（1・28）ライデン気候馴化園庭師 A.ハクビイルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月23日（2・5）ヴェルツブルグにて、「日本博物館用梱包品リスト」をメモする。
- 3月日付不詳、ヴェルツブルグの「日本博物館」をミュンヘンへ移転。
- 4月1日（2・16）～6月15日（5・3）オランダのライデン気候馴化園で「日本植物の販売と展示会」が開かれる。
- 4月日付不詳、ヴェルツブルグからミュンヘンに赴く。
- * 5月1日（3・17）ロンドンのジェームス・ヴェイチ親子園芸店（James Veitch & fils）がロンドンからシーボルト宛に書簡と短信（印刷物）を送る。
- * 5月8日（3・24）バイエルン王国副官がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月14日（4・4）グラーフ・パッペンハイム（Graef Pappenheim）がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。

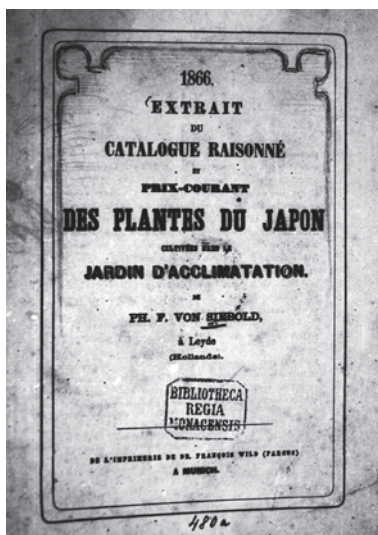
- 5月18日（4・8）ミュンヘンにて、バイエルン王国政府宛にコレクションの展示会についての手紙を書く。
- 5月19日（4・9）ミュンヘンの民族学資料管理責任者モーリッツ・ワグナー（Moriz Wagner）の仲介により、王宮庭園（ホーフガルテン）隣接の旧絵画館の部屋でシーボルト・コレクションの展示会を、王国参事官フリードリッヒ・フォン・リングエルマン（Friedrich von Ringelmann）の臨席のもとで開く。バイエルン政府はシーボルト・コレクション購入の予定を約束していたが、シーボルト死後の1874年によようやく実現する（注：前掲書『シーボルトの日本研究』石山禎一編著 92頁 参照）。
- 5月21日（4・7）ミュンヘンにて、バイエルン王国内務省教会学校局宛の手紙を書く。
- ◇ 5月22日（4・8）～25日（4・11）ロンドンにて、国際園芸品評会および植物学会議開催。リスト『植物学会，1866年5月22日～25日，参加者名簿』・短信『国際植物展示会，1866年5月22日～25日』・『シーボルト植物展』（広告）。
- * 5月27日（4・13）ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシンゲルとハウステッターがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月29日（4・15）ミュンヘンにて、アルレス（M. Arles）宛の手紙を書く。
- 5月31日（4・17）ミュンヘンにて、ヘントの園芸家シェヴァリエール・ルイズ・ファン・ホウッテ宛の手紙を書く。
- * 同日，Fr.フライシャー書店がオーステルメッセからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月日付不詳，ライデン気候馴化園・シーボルト邸宅「ニッポン」の管理者・造園技師ヤコブ・マター（Jacob Mater）がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月1日（4・18）リングザイス？（Ringseis）がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月4日（4・21）Fr.フライシャー書店がライプツィヒからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月7日（4・24）ライデン気候馴化園園芸家A.ハクビールがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月24日（5・24）ヘレーネ・フォン・シーボルト（Helene von Siebold シーボルトの妻）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

- * 7月4日（5・22）ヘレーネ・フォン・シーボルト（シーボルトの妻）がヴュルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月9日（5・27）ヘレーネ・フォン・シーボルト（シーボルトの妻）がヴュルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月11日（5・29）ミュンヘンにて、バイエルン国王（ルートヴィヒ二世）宛の手紙を書く。
- * 7月13日（6・2）ミュンヘンの王立コレクション管理責任者ブムラー（G. Bumuller）がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月19日（6・8）ヘレーネ・フォン・シーボルト（シーボルトの妻）がヴュルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月21日（6・10）ヘレーネ・フォン・シーボルト（シーボルトの妻）がヴュルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月22日（6・11）ミュンヘンにて、ヴュルツブルグ市会議員プフィステンマイスター（Pfistenmeister）宛の手紙を書く。
- * 7月31日（6・20）ヘレーネ・フォン・シーボルト（シーボルトの妻）がヴュルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月10日（7・1）ヘレーネ・フォン・シーボルト（シーボルトの妻）がヴュルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 8月16日（7・7）ミュンヘンにて、自ら宛の貨物運送状（送り状）をヴュルツブルグに発送。
- 8月26日（7・17）ミュンヘンにて、江戸の外国掛閣老宛に手紙を書き、幕府に日本の武士と学者をミュンヘンに派遣するよう提案する。
- * 8月30日（7・21）王立建築物庭園管理事務所の庭師カームバッハ（Th. Carmbach）がストゥットガルト（Stuttugart）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月1日（7・23）ヴュルツブルグにて、リスト「ヴュルツブルグからミュンヘンの鉄道輸送荷物一覧」を作成。
- * 9月10日（8・2）ライデン気候馴化園庭師 A.ハクビールがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。



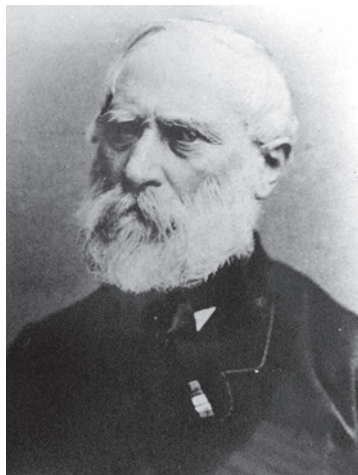
〔図104〕 「A.ハクビルからシーボルト宛書簡の一部」
（ボフム大学図書館所蔵）

- *10月7日（8・29）園芸家 W.L.H.ストリイボッシュがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月10日（9・2）ライデン気候馴化園庭師 A.ハクビルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *月日不詳，Fr.フライシャー書店がオーステルメッセからシーボルト宛に請求書を送る。
- *月日不詳，フランス文豪アルフォンス・ドーデーがパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- 月日不詳，ミュンヘンからロシア皇帝宛の手紙を書く。
- 『1866年，フィリップ・フランツ・フォン・シーボルトのライデン（オランダ）気候馴化園で栽培された日本植物の説明付き目録の要約と市価』（仏文・ラテン語）23頁。ドゥ・フランソア・ヴィルド（de Francois Wild）社印刷，ミュンヘン刊。



〔図105〕「1866年、日本植物の説明付目録の要約と市価」表紙部分
(ライデン国立植物標本館所蔵)

- 10月18日 (9・10) ミュンヘンで風邪をこじらせ敗血症を併発して死去。
- 10月21日 (9・13) ミュンヘンのタール教会通り (Thalkirchner Strasse) の旧南墓地 (33地区13列5号) に埋葬。砲兵第一連隊長ルドルフ・フォン・ウント・ツー・デル・タン (Rudolf Freiheer von und zu der Tann) 大佐指揮下のバイエルン国軍一部隊が陸軍の荣誉礼をささげる。墓の上に中国のパゴダの形式の記念碑を建立。正面にルドルフ・シュヴァンターラー (Rudolf Schwanthaler) の塑像によるシーボルトの肖像レリーフが取り付けられる。
- 11月1日 (9・24) シーボルトの死後、未



〔図106〕最晩年のシーボルト
(長崎シーボルト記念館所蔵)

亡人は月額97.78ギルダーと、18歳に満たない4人の子どものために、毎月20ギルダーを受給することとなる（注：前掲書マククリーン著の訳文『シーボルトと日本の開国』1843-1866年 96-97頁 参照）。

- ◇薩長連合なる。改税約書調印。大坂・江戸で打ちこわし。
- ◇第14代將軍徳川家茂死去。
- ◇幕府、軍艦操練所を海軍所と改称。
- ◇第15代將軍徳川慶喜就任。
- ◇孝明天皇崩御。



〔図107〕 ミュンヘンの旧南墓地にある「シーボルトの墓」

5. その後

1867年（慶応3年）

- 2月15日（1・11）アレクサンダーが幕府の遣欧使節に同行。
- 5月12日（4・9）故フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト所有の鳴滝の資産に関する宣誓書を、ヘレーネ・フォン・シーボルト（シーボルトの妻）がヴェルツブルグで書き写す。
- 9月21日（8・24）アレクサンダー、亡父フォン・シーボルトの別荘「ニッポン」およびライデンの気候馴化園に遣欧使節徳川昭武一行を招待する。
- * 11月10日（10・15）ハーケン・プロムドゥアー（Haaken Plomdeur）がリエージュ（Liege）からシーボルト宛に書簡を送る。
- ◇ 『1867年、施設に導入された日本および中国の植物：故フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト氏のライデン（オランダ）気候馴化園で栽培された植物目録と市価』65頁。ライデン、セイトホフ（A. W. Sijthoff）社発行。
- ◇ 討幕の密勅。
- ◇ 大政奉還上表。
- ◇ 王政復古の大号令。
- ◇ 幕府、パリの万国博覧会に参加。

1868年（慶応4年）

- 4月25日（4・3）ジャクソン（Jackson）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- わが国最初の新聞「万国新聞紙」3月下旬発行・第11集（英国教師ペーリー編 毎得新報発、横浜出版）にシーボルトの死去と彼のコレクション売却に関する情報が早くも掲載。
- ◇東京にオランダ公使館を開設。
- ◇戊辰戦争始まる（～69年）。
- ◇江戸開城。
- ◇五か条の御誓文。
- ◇江戸を東京と改称。

1869年（明治2年）

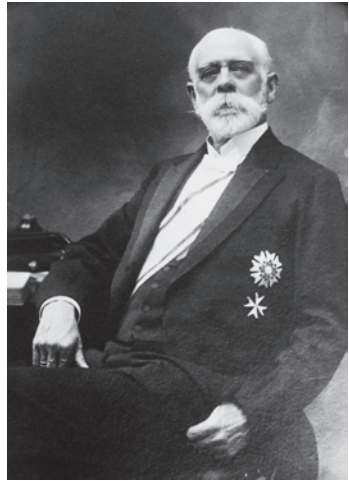
- ◇2月～5月 版籍奉還・東京遷都・箱館五稜郭の戦い。
- 5月23日（4・12）其扇（楠本たき）長崎で没する（享年62歳）。
- ◇『1868－1869年。施設に導入された日本および中国の植物：故フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト氏のライデン（オランダ）気候馴化園で栽培された植物の目録と市価』59頁，ライデンのA.W.セイトホフ社発行。
- ◇『1869年2月。故フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト氏のライデン（オランダ）気候馴化園で栽培された興味深い一般的な新しい植物の目録の追加と要約』8頁，4つ折り本発行。
- ◇『1869年7月。故フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト氏の施設に輸入された日本の植物…最近輸入の新しい植物』4頁，4つ折り本発行。

1870年（明治3年）

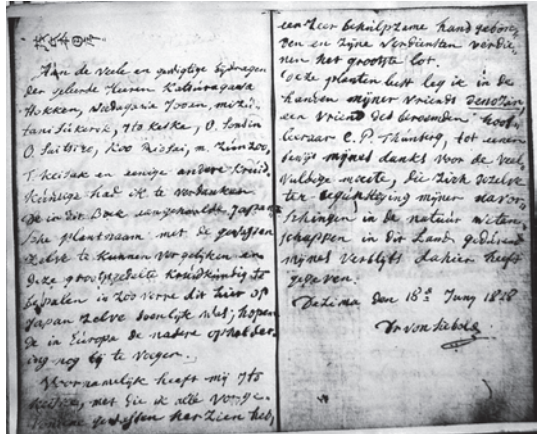
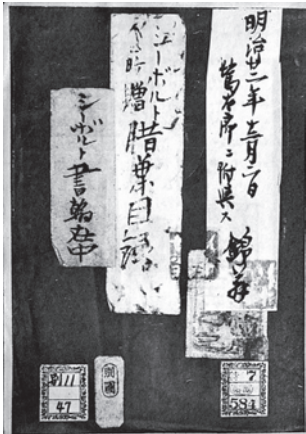
- アレクサンダー，イギリス公使館勤務を退職。日本政府雇いとなる。日墮修好通商航海条約締結の功によりオーストリアの男爵となる。
- 『日本植物誌』（Flora Japonica）の出版終わる。
- ◇工部省設置。

1871年（明治4年）

- ◇『1870-1871年。施設に導入された日本および中国の植物：故フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト氏のライデン（オランダ）の気候馴化園で栽培された植物の目録と市価』56頁，ライデンのA・W・セイトホフ社発行。
- ◇5月26日（4・8）伊藤圭介の手稿本『シーボルトへ所贈腊葉目録』（国立国会図書館伊藤文庫所蔵）に「シーボルトからの自筆書簡」を掲載。
- ◇ドイツ帝国成立。
- ◇岩倉具視らを欧米に派遣（～73年）。
- ◇廃藩置県。



〔図108〕「アクサンダー・フォン・シーボルト肖像写真」（フォン・プランデンシュタイン家所蔵）



〔図109〕伊藤圭介手稿本「シーボルトへ所贈腊葉目録」の表紙とシーボルトからの自筆書簡の一部（国立国会図書館所蔵「伊藤文庫」）

1872年（明治5年）

- アレクサンダーとハインリッヒの両名は、日本政府のウィーン万国博覧会参加の準備にあたる。
- ◇『1872年3月。故フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト氏のライデン（オランダ）の施設〔気候馴化園〕に導入された日本の植物』6頁，4つ折り本発行。
- ◇学制頒布。
- ◇太陽暦採用（12月3日から6年元旦）。
- ◇福沢諭吉『学問ノススメ』刊行開始。

1873年（明治6年）

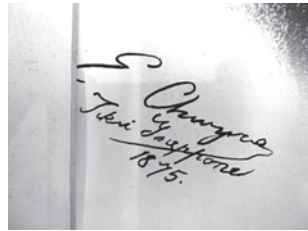
- イネ，宮内省御用掛として明治天皇の子どもの出産に立ち会う。
- ウィーン万国博覧会開催。ウィーン市庭園局長は博覧会を契機にシーボルト記念碑設置を提案。
- バイエルン科学アカデミー総裁フォン・リーヴィッヒ (von Liebig) がシーボルト・コレクションの国有化のため精力的に尽力。
- ◇『1873年2月。故フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト氏のライデン（オランダ）の施設〔気候馴化園〕に輸入された日本の植物』4頁，4つ折り本発行。
- ◇『故フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト氏のライデン（オランダ）の園芸施設〔気候馴化園〕で取り引きしている若干の新しい植物の目録』4頁，4つ折り本発行。
- ◇徴兵令施行。
- ◇地租改正条例。

1874年（明治7年）

- 鳴滝の建物（シーボルト旧宅），台風により大破。
- バイエルン政府はミュンヘンのシーボルト・コレクションを5万グルデンで購入。のちミュンヘン国立民族学博物館に所蔵され特別展などで紹介。
- オーストリア園芸協会会報「庭園の友」（12月号）がシーボルトの業績を称える記事を掲載。
- △月日不詳，元出島オランダ商館員・シーボルトの助手C.H. ドゥ・ヴィルヌーヴ没する（享年74歳）。

1875年（明治8年）

○イタリアの版画家エドアルド・キョソーネ (Eduardo Chiossone) 「シーボルト肖像」を描く。



〔図110〕キョソーネ筆「シーボルト肖像」と「キョソーネの署名」

1876年（明治9年）

○10月長崎村が鳴滝の敷地および建物を楠本イネから借用し、第五大学区第一中学区鳴滝小学校を設置。のち就学児童の減少と教員の相次ぐ更迭により廃校。

△1月29日戸塚静海没する（享年77歳）。

1877年（明治10年）

○3月1日ヘレーネ・フォン・シーボルト夫人（旧姓フォン・ガーゲルン）がヴィスバーデン (Wiesbaden) で没する（享年57歳）。墓所はミュンヘンの夫の傍ら（左側）に埋葬される。

△三瀬周三没する（享年38歳）。

◇西南戦争。

- ◇第1回内国勸業博覧会。
- ◇モース大森貝塚を発掘。
- ◇イギリス領インド帝国成立（～1947年）。

1879年（明治12年）

- 長崎の諏訪公園に「施福多君記念碑」が建てられる。



〔図111〕 諏訪公園に建立されていたシーボルト記念碑の写真
（フォン・ブランデンシュタイン家所蔵）

1881年（明治14年）

- 1873年提案の「シーボルト記念碑」が8年後にウィーン帝立王立園芸協会敷地内に建てられる。
- ◇明治14年の政変。
- ◇国会開設の詔。

1882年（明治15年）

- 10月8日ヴェルツブルグにシーボルト胸像（ミュンヘンの美術学校教授クリスチャン・ロート博士 Prof. Christian Roth 製作）の記念碑が建てられ、除幕式が行なわれる。シーボルトの長男アレクサンダーと次男ハンリッヒをはじめその遺族らが臨席。



〔図112〕 ウィーン帝立園芸協会敷地内に建立の「シーボルト記念碑」と「ウィーン絵入り号外新聞：1881年4月22日第110号」（フォン・ブランデンシュタイン家所蔵）

ヴェルツブルグ市として公式に祝賀を催す。建碑式はフランケンの園芸協会の第25創立記念会の折に執り行われる。

これに先立つ1874年（明治7年）10月、ヨーロッパにおいて園芸で名のある都市に支部委員を置いて、記念碑建立のための寄付金募集に取り掛かる。日本でも1875年（明治8年）大隈重信・寺島宗則・佐野常民らが発起人となり、オーストリア・イタリア・オランダ・ドイツなどの諸国の公使と共に会合。黒田長溥を総裁として、佐野常民・伊藤圭介、戸塚静海を幹事、戸塚文海・田中芳男を書記とし、ヨーロッパ側はオランダ公使・イタリア公使・オーストリア領事を書記として、寄付金募集に着手す



〔図113〕「ヴェルツブルグのシーボルト胸像」（『シーボルト先生渡来百年記念論文集』大正13年刊より）

る。寄付金は1円として、その拠出者には、イタリアの画家キヨソネ筆の「シーボルトの肖像」(石版画)を記念品として配る。日本で集まった金額は合計1700円にのほり、その内1000円をヨーロッパに郵送し、残り700円は長崎に建立の記念碑に当てることにしたという。

◇ドイツ・オーストリア・イタリア三国同盟。

1885年(明治18年)

○6月11日アレクサンダー、ローマの日本公使館勤務後、長崎に立ち寄り鳴滝を訪ね、朽ちはてた家屋、庭園などを見て嘆く。僅かに昔馴染みの老木があるのに懐かしむ。

○この年(?)、オランダのライデルドルプにあるシーボルトの邸宅「ニッポン」を、ブラウニング(B. Brauning)が写真撮影。

◇大阪事件。太政官を廃し、内閣制度制定。

◇インド国民会議。

1891年(明治24年)

○ハインリッヒ・フォン・シーボルトがオーストリア男爵となる。

◇天津事件。

◇足尾鉾毒事件。

◇露仏同盟。

1894年(明治27年)

○鳴滝のシーボルト居宅は老朽化により解体。

◇日清戦争(~95年)。

1896年(明治29年)

○ブランデンシュタイン家、ドイツのエルム郊外のブランデンシュタイン城へ移り住む。



〔図114〕「ハインリッヒ・フォン・シーボルト肖像写真」(フォン・ブランデンシュタイン家所蔵)

- ライデルドルプの邸宅〈ニッポン〉は、シーボルト死後何人かの手を経て、この年ライデン市が購入し、周囲は大衆住宅となる。また、邸宅とともにあった気候馴化園の植物は1899年、アレクサンダーがドイツに移植し、ライデルドルプはシーボルト通り、デシマ通りの名を残すのみとなる。
- 2月17日ヴェルツブルグ・東京・横浜でシーボルト生誕百年記念会の祝典を開催。同記念会祝典で、ドイツ東亜細亜研究協会会員ハインリッヒ・フォン・シーボルト、来賓一同相会し、エルヴィン・ベルツ博士講演。会場：上野精養軒。
- ◇第1回オリンピック大会（アテネ）。

1897年（明治30年）

- 3月「シーボルト先生宅跡之碑」が鳴滝のシーボルト宅跡に建てられる。
- ◇日蘭修好通商航海条約締結。
- ◇金本位制確立。
- ◇清国、列国に膠洲湾・旅順・九竜など租借される。

1901年（明治34年）

- △1月20日伊藤圭介没する（享年98歳）。
- ◇八幡製鉄所開業。
- ◇北京議定書。

1903年（明治36年）

- シーボルトの娘お稲、東京の麻布で没する（享年76歳）。
- ◇平民社創立・平民新聞発行。
- ◇ライト兄弟、飛行機発明。

1907年（明治49年）

- 夏ごろ、ハインリッヒ・フォン・シーボルトは大病に罹りウィーンでの手術により回復。フロイデンシュタイン城で、呉秀三著『シーボルト』（吐鳳堂・英蘭堂、明治29年刊）の翻訳に着手。

1908年（明治41年）

- 8月11日ハインリッヒ・フォン・シーボルトがオーストリアのフロデンシュタイン城で没する（享年56歳）。

1909年（明治40年）

- ハインリッヒ・フォン・シーボルトの呉秀三著『シーボルト』翻訳本ライプツィヒで出版（Ph. Fr. von Siebold. Der Erforscher Japan -sein Leben und Wirken. Nach der Japanischen Denkts des Dr. Kure dargestellt von Heinrich Freiheer von Siebold, K.u.K. österr. -ungar Legationsehetär. Leipzig Uelag von Woert K.u.K. Hofbuchhändler 1909. 79 S., Abb., 8°. 「Ph.Fr.フォン・シーボルト。日本研究者その生涯と活動」男爵ハインリッヒ・フォン・シーボルト著。呉秀三博士の日本語の覚書により叙述。ライプツィヒ, L.ヴェレル, 1909年79頁図5, 8つ折り本）。

1911年（明治44年）

- 1月23日アレクサンダー・フォン・シーボルトがジェノヴァ近郊のペリで没する（享年65歳）。
- ◇辛亥革命。
- ◇第2次条約改正（関税自主権の回復）。
- ◇工場法公布。

1914年（大正2年）～1918年（大正7年）

- ウィーンの「シーボルト記念碑」は第1次世界大戦中に荒らされ埋没。

1922年（大正11年）

- 鳴滝のシーボルト宅跡が国の史蹟名勝天然記念物の指定を受ける。

1923年（大正12年）

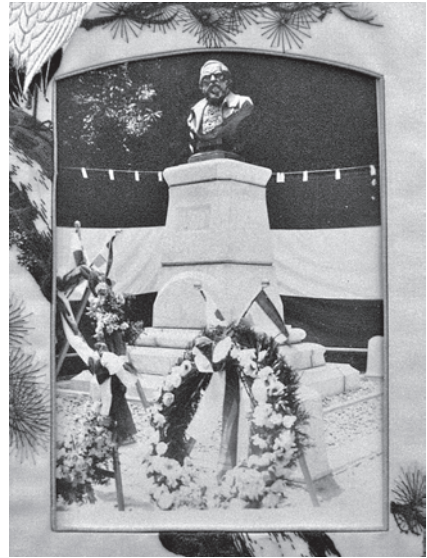
- 秋、長崎でシーボルト渡来百年記念事業計画される。しかし当時、東京を襲った大地震のためやむなく延期する。

1924年（大正13年）

○4月27日シーボルト先生渡来百年記念式典がシーボルト宅跡で開催され、同所奥の竹林の中に「シーボルト胸像」（東京美術学校教授水谷鐵也製作）を建てる。その後、胸像は太平洋戦争中に武器製造のため供出され台座のみ残る。

1926年（昭和元年）

○1920年代に大戦で埋没したウィーンの「シーボルト記念碑」を歌人斉藤茂吉が発見。記念碑は日本総領事が募金を募り修復。シェンブルン宮殿内の巨大熱帯植物栽培用温室（パルメンハウス）向かい側一角に移建。



〔図115〕「シーボルト胸像」（フォン・ブランデンシュタイン家所蔵）



〔図116〕シェンブルグ宮殿内の巨大熱帯植物栽培用温室（パルメンハウス）向側一角に移建の「シーボルト記念碑」



1928年（昭和3年）

- ドイツでベルリン日本学会が「シーボルト回想展」が開催される。ドイツにおいても日独交流の道が開かれる。

1932年（昭和7年）

- オランダのライデンに「シーボルト胸像」の記念碑を建てる。

1934年（昭和9年）

- 5月日本学会所蔵シーボルト文献が日独文化協会に将来せらる。



〔図117〕ライデン大学附属植物園内のシーボルト・メモリアル・ガーデンにある「シーボルト胸像」

1935年（昭和10年）

- 「シーボルト資料展覧会」東京科学博物館。会期：4月20日～4月29日。主催：日独文化協会・日本医史学会・東京科学博物館。

1962年（昭和37年）

- 「シーボルト先生胸像の再建並びにシーボルト宅跡の整備保存」を目的として、シーボルト先生史跡保存会が結成され、募金を募り、県立長崎図書館に残っていた石膏型を使って胸像を復元する。
- 秋、長崎大学の前に「フィリップ・フランツ・フォン・シーボルトの記念碑」（鑄金家・日展会員の西大由によるブロンズのレリーフ：長崎大学学長北村精一銘記）で建てる。

1963年（昭和38年）

- シーボルト胸像復元の除幕式（宅跡の2つの井戸の間に胸像を建立）。式典：3月16日。
- シーボルト没後百年を記念して長崎で記念行事を開催。

1965年（昭和40年）

- 「シーボルトを語る会」前進座（東京）。会期：4月3日。
- 前進座創立35周年記念「第1部あぢさい伝綺，シーボルト夜話第2部ああ30年」を上演。会期：5月2日から19日。

1966年（昭和41年）

- 長崎のシーボルト宅跡（鳴滝塾跡）遺族出席のもとで献華式。長崎県立図書館講堂にて講演会開催。会期：10月3日。
- シーボルト没後百年記念行事「シーボルトを偲ぶ夕」（朝日講堂にて講演と映画）開催。遺族来日。会期：10月22日。主催：日独協会。
- ケンペル没後250年・シーボルト没後100年記念「ケンペル・シーボルト資料展示会」会期：10月22日～31日。主催：ケンペル・シーボルト記念顕彰会，長崎県立美術館，長崎市立博物館。
- 「ケンペルとシーボルトの功績を顕彰する式典及びレセプション」ホテル・ニューオータニ「芙蓉の間」。会期：10月26日。日独両国遺族出席。主催：日独協会，国際医学協会，OAG 独逸東亜細亜研究会。
- 演劇「シーボルト夜話あぢさい伝綺」長崎の三菱会館上演。会期：10月29日。

1967年（昭和42年）

- 春の特別展「長崎」展（オランダ船図，長崎刺繍，青貝細工，シーボルト処方箋など）サントリー美術館。会期：3月4日～5月7日。主催：サントリー美術館。

1968年（昭和43年）

- 明治村開村3周年記念「〈東海〉近代の黎明展」（シーボルトの顕微鏡など展示）明治村三重県庁舎。会期：3月18日～31日。主催：財団法人博物館「明治村」。

1970年（昭和45年）

- 鳴滝のシーボルト宅跡が特別史蹟名勝天然記念物および史蹟名勝天然記念物に指定される。史蹟に指定された土地の総面積は7,649平方メートルで，そのうち国有地は4,604平方メートル，残りはまだ民有地であるという。

1973年（昭和48年）

- 渡来150年記念シーボルト顕彰会を結成。記念行事が長崎で催され、出島薬園跡に記念碑を建立。会期：10月日付不明。



〔図118〕出島薬園跡に建立の記念碑

1974年（昭和49年）

- 「解体新書」刊行200年記念・シーボルト長崎開塾150年記念「近代日本のあけぼの」展。大阪市立博物館。会期：3月10日～4月14日。主催：大阪市教育委員会・協賛：蘭学資料研究会・日本医史学会。

1975年（昭和50年）

- 「シーボルトと日本『日本』復刻版刊行記念資料展」東京展：12月8日～13日，丸善本店3階。京都展：翌年1月6日～10日，丸善京都支店4階。大阪展：1月19日～24日，丸善大阪支店2階。名古屋展：2月9日～14日，丸善名古屋支店3階。主催：日蘭学会。後援：オランダ大使館・ドイツ連邦共和国大使館。協賛：講談社・丸善。

1976年（昭和51年）

- シーボルト江戸参府150年記念オランダ国立ライデン民族学博物館所蔵「シーボルト・コレクションを中心とした浮世絵展」大阪：3月12日～17日，近鉄百貨店上本町：3月20日～4月11日，東京：リッカー美術館。小倉：4月14日～19日，小倉玉屋。福岡：5月14日～26日，リッカー美術館分館。岡山：6月10日～22日，天満屋岡山店。金沢：6月10日～22日大和金沢店開催。主催：オランダ国立ライデン民族学博物館，日本浮世絵協会，日蘭学会，毎日新聞，山陽新聞社，読売新聞社。後援：外務省，文化庁，オランダ大使館。協賛：KLM オランダ航空。
- フローラヤポニカ『日本植物誌』および『日本 NIPPON』の復刻刊行，講談社。

1978年（昭和53年）

- 「シーボルト賞」がドイツ連邦共和国で制定。

1979年（昭和54年）

- シーボルト『日本』日本語版全訳完結9冊（本巻6冊，図版3冊）雄松堂書店の出版記念懇談会。東京大学学士会分館。会期：5月25日。

1980年（昭和55年）

- 鎖国の窓を開く：出島の絵師「川原慶賀展」西武美術館。会期：4月19日～5月21日。

1982年（昭和57年）

- 法政大学文学部フォン・シーボルト研究会発足。

1983年（昭和58年）

- 第41回資料紹介展「シーボルト著作」学習院大学。会期：10月1日～30日。

1986年（昭和61年）

- 築造350年「長崎・出島展」東京会場：新宿・伊勢丹美術館 7月31日～8月19日。
大阪会場：梅田・大丸ミュージアム10月29日～11月10日。主催：シーボルト・カウ
ンシル。
- 海外植物園紹介シリーズ・2「ライデン大学植物園展」名古屋市立東山植物園。会
期：10月1日～30日。主催：名古屋市立東山植物園。
- 法政大学第11回国際シンポジウム「PH.FR.VON シーボルトと日本の近代化」法政
大学多摩校舎百周年記念館。会期：10月17日～19日主催：法政大学。
- シーボルト顕彰記念講演会「東西のかけはし シーボルト再考」長崎大学薬学部大
講義室。会期：10月26日。主催：長崎大学，長崎市。協賛：長崎県医師会・長崎市
医師会。

1987年（昭和62年）

- 「シーボルトと三瀬諸淵展～近代国家の夜明け～」大洲市立博物館。会期：12月1
日～翌年2月25日。
- 『幕末の“日本”を伝えるシーボルトの絵師川原慶賀展』西武美術館。東京展：1
月2日～1月20日。有楽町アート・フォーラム。関西展：1月24日～2月15日。つ
かしんホール・尼崎。

1988年（昭和63年）

- 日本・オランダ修好380年記念を迎え，京都国立博物館・名古屋市博物館・東京国
立博物館で「シーボルトと日本」特別展（3月29日～7月31日）を開催。
- 6月18日 築地・あかつき公園内（東京都中央区築地7丁目，聖路加ガーデンの東
側）に，オランダ・ライデン国立民族学博物館所蔵の「シーボルト胸像」を基に造
られたとされる「シーボルト像」を建立（日蘭友好を目的にオランダのライデン大
学とアルフレット・エリオン財団の手による。朝日新聞社の助力のもと）。

1989年（平成元年）

- 10月1日，長崎市シーボルト記念館開館。
- シーボルト記念館：第1回特別展「川原慶賀展」〈ライデン国立民族学博物館蔵〉
会期：10月1日～11月1日。



〔図119〕シーボルト記念館建設当時の写真と完成予想図

1990年（平成2年）

- 「ヨーロッパに眠る日本の宝—シーボルト・コレクション展」長崎県立美術館。会期：8月3日～11月4日。主催：シーボルト・カウンシル，長崎県立美術館。
- シーボルト記念館：第2回特別展「間宮林蔵展」会期：8月3日～11月4日。

1991年（平成3年）

- シーボルト記念館：第3回特別展「楠本いね展」（8月4日～11月3日）開催。

1992年（平成4年）

- シーボルト記念館：第4回特別展「シーボルトと日蘭交流史の遺産展」会期：9月1日～11月29日。

1993年（平成5年）

- シーボルト記念館：第5回特別展「シーボルトと門弟展」会期：9月1日～11月28日。
- 「西洋人の描いた日本地図展—ジパングからシーボルトまで—」サントリー美術館。会期：5月29日～7月4日。主催：サントリー美術館，OAGドイツ東洋文化研究協会，日本経済新聞社。

1994年（平成6年）

- シーボルト記念館：第6回特別展「伊藤圭介展」（9月1日～11月30日）開催。

1995年（平成7年）

- 「シーボルト旧蔵日本植物図譜展」小田急美術館。会期：2月26日～3月19日。
- シーボルト記念館：第7回特別展「シーボルトとアイヌ展」会期：9月1日～11月29日。
- 7月3日ヴェルツブルグに「シーボルト博物館」開館。



〔図120〕 ヴェルツブルグのシーボルト博物館

- サンクトペテルスブルグのコマロフ植物研究所蔵「シーボルト旧蔵・日本植物図譜展」小田急美術館（新宿店本館11階）。会期：2月26日～3月19日。

1996年（平成8年）

- シーボルト生誕200周年記念を迎え、林原美術館（岡山）・江戸東京博物館（東京）・国立民族学博物館（大阪）で特別展「シーボルト父子のみた日本」会期：2月10日～11月19日。
- 生誕200周年記念特別展「Philipp Franz von Siebold Seine Familie Seine Zeit」展，ヴェルツブルグのシーボルト博物館。会期：2月17



〔図121〕「シーボルト父子のみた日本」図録の表紙部分

日～3月20日。主催：シーボルト協会。

- シーボルト記念館：シーボルト生誕200周年記念特別展，第8回「シーボルトの二百年展」会期：5月1日～7月10日。
- 「シーボルト生誕200年記念切手展」長崎市新大工町郵便局。会期：5月1日～5月31日。主催：宮川雅一，新大工町郵便局。
- 特別展「シーボルト家の200年展」愛媛県宇和町先哲記念館。会期：7月20日～8月18日。関連行事「シーボルト・イネ顕彰サミット（シンポジウム開催：7月21日・宇和町米博物館）」。
- 特別展「シーボルト家の200年展」同県保内町中央公民館。会期8月25日～9月23日。
- 特別展「シーボルト家の200年展」滋賀県大津市歴史博物館。会期：10月2日～11月10日。
- 「シーボルトと伊藤圭介展」名古屋市東山植物園。会期：9月19日～10月20日。
- 「シーボルト生誕200年記念国際医学シンポジウム」長崎大学医学部記念講堂。会期：9月26日～29日。
- 特別展「医師シーボルトと長崎」長崎ハウステンボス美術館。会期：9月29日～11月5日。
- 堺市中核市移行記念・シーボルト生誕200年記念特別展「シーボルト，日本を旅するー外国人の見た日本の原風景ー」堺市博物館。会期：10月5日～11月10日。
- 「“花と鳥”刺しゅう展」長崎県立美術館。会期：10月23日～27日。麻布郵便局。会期：11月1日～15日。
- 2月16日シーボルト生誕200年を記念して，郵便切手が日本とドイツの両国から発行。切手の意匠はシーボルトの肖像と彼がヨーロッパに紹介したとされるナッツタが描かれる。
- 7月20日滋賀県民間天文台「ダイニクアストロパーク天究館」発見の小惑星に「シーボルト」と命名。アメリカの国際天文台（IAU）に登録。

1997年（平成9年）

- 第28回戸塚刺しゅう展「シーボルトが描かせた人物画帖」長崎・浜屋百貨店。会期：2月26日～3月3日。主催：戸塚刺しゅう長崎支部。

- 平成9年度企画展『伊予の蘭学 — 近代科学の夜明け —』愛媛県歴史文化博物館。
会期：7月13日～8月31日。
- シーボルト記念館：第9回特別展「三瀬周三展」会期：9月12日～11月30日。
- 放送大学付属図書館所蔵、日本関係コレクション展示会『西洋の日本観 — フロイスからシーボルトまで —』紀伊国屋書店新宿本店4階画廊。会期：8月7日～11日。

1998年（平成10年）

- シーボルト記念館：第10回特別展「オランダ渡りのお薬展～蘇るシーボルトの処方箋～」会期：9月24日～11月29日。

1999年（平成11年）

- シーボルト記念館：第11回特別展「シーボルトと宇田川榕菴～響き合う東西の秀才たち～」会期：9月21日～11月21日。

2000年（平成12年）

- 日蘭交流400周年記念行事を各地で開催。
- 3月、シーボルトがオランダに持ちかえった日本植物のうち、ライデン大学付属植物園に生育の13種15本の子孫の中から、アケビ2本・フジ2本・ケヤキ1本・イロハモミジ1本・ナツツタ1本の苗木5種7本が里帰りして出島植物園に移植する。
- ミュージアムパーク茨城県自然博物館第18回企画展「シーボルトの愛した日本の自然 — 紫陽花・山椒魚・煙水晶 —」ミュージアムパーク茨城県自然博物館。会期：3月18日～6月18日。
- 長崎シーボルト記念館：日蘭交流400周年記念・第12回特別展「シーボルト旧蔵日本植物展～鳴滝に花開く植物図～」会期：3月18日～4月23日。
- 長崎シーボルト記念館：第13回特別展「シーボルトの江戸参府展～シーボルト日本調査旅行～」会期：9月12日～10月22日。
- 日蘭交流400周年記念「秘蔵カピタンの江戸コレクション — オランダ人の日本趣味 —」長崎市立博物館。会期：4月19日～6月15日。
- 「大出島展 — ライデン・長崎江戸 — 異国文化の窓口」江戸東京博物館。会期：10

月3日～12月3日。

- 「秘蔵カピタンの江戸コレクション—オランダ人の日本趣味」江戸東京博物館。
会期：10月30日～12月3日。
- 「蘭学万華鏡—江戸時代・信濃の科学技術展」長野県立歴史館。会期：10月9日～11月14日。
- 「出島の科学—日本の近代科学に果たしたオランダの貢献—」長崎市立博物館。
会期：10月18日～11月26日。
- オランダ・ライデン市ラーベンプルフ19番地の「シーボルト旧邸宅」が日蘭交流400周年に当たる本年4月に「シーボルト・ハウス」と名付けられ、国立民族学博物館・ライデン大学図書館等の協力態勢のもとに「シーボルトの江戸参府展」会期：4月5日～10月31日。21世紀の日蘭交流の場として生まれ変わる（この年の10月31日で一時的閉館。改装して4年後に本格的な博物館として開館予定）。
- 「江戸参府展」オランダ・アムステルダム王宮。会期：6月24日から9月24日。
- 長崎大学日蘭交流400周年記念事業：シーボルト植物の里帰り市民公開シンポジウム「植物を通じた日蘭交流」長崎大学中部講堂（文教キャンパス）。会期：11月15日。主催：長崎大学・ライデン大学。

2001年（平成13年）

- 平成13年度史跡シーボルト宅跡発掘調査（9月10日～11月15日・庭園内植木移植および復旧を含む）長崎市教育委員会。
- シーボルト記念館：第14回特別展「シーボルトと楽器展」会期：7月1日～8月31日。
- 東京大学駒場教養部美術博物館：特別展示「シーボルトと日本の植物」会期：9月26日～10月26日。

2002年（平成14年）

- 4月、佐倉市・佐倉日蘭協会共催の国際セミナーとくらしの植物苑観察会が開かれ、ライデン大学附属植物園からシーボルト・チルドレン（オランダでの呼び名）のうち、ツタ・フジ・イロハモミジ・アケビ・オニグルミの各1本5種が国立民俗学博物館へ寄贈され、同地の「くらしの植物苑」に移植する。



【図122】「くらしの植物苑」に移植した当時のシーボルト・チルドレン5種

- 日本のボタニカル・アートの原点「シーボルト・コレクション日本植物図譜展」会期：福岡展 4月12日～5月19日。主催：田川市美術館。岩手展 6月15日～7月28日。主催：岩手県立美術館。千葉展 8月17日～9月23日。主催：佐倉市立美術館。東京展 12月26日～翌年1月12日。小田急百貨店 主催：(財)NHK サービスセンター。
- 平成14年度史跡シーボルト宅跡発掘調査（7月3日～8月13日），長崎市教育委員会。
- 長崎シーボルト記念館：第15回特別展「江戸時代の測量と製図展」会期：10月4日～11月3日。
- 津山洋学資料館：平成14年度特別展「シーボルト最後の門人三瀬諸淵の生涯」会期：10月19日～11月17日。

2003年（平成15年）

- 出島史料館分館「カピタン部屋展」国指定史跡「出島和蘭商館跡」開催。会期：4月25日～5月15日。主催：長崎市教育委員会。
- シーボルト記念館：第16回特別展「なにわの天文学展」会期：10月3日～11月2日。
- 東京大学総合研究博物館・国際共同展示「シーボルトの21世紀」会期：10月4日～12月7日。
- 平成15年度史跡シーボルト宅跡発掘調査（10月21日～11月21日），長崎市教育委員会。

- 第48回津山洋学資料館 文化講演会「日本の花と出会ったシーボルト」会期：5月25日。主催：津山教育委員会 津山洋学資料館 後援：津山洋学資料館友の会。

2004年（平成16年）

- シーボルト宅跡環境整備（11月17日～翌年1月15日），長崎市教育委員会。
- 高野長英生誕200年記念特別企画展「高野長英 — 鎖国のなか近代日本の扉を叩いた男の生涯」会期：9月26日～10月31日。主催：高野長英生誕200年記念事業実行委員会，水沢市教育委員会，高野記念館主催。
- 平成16年度第2回千葉大学附属図書館本館資料展示「シーボルトの著作—復刻版「NIPPON」を中心に」開催。会期：不詳。
- 兵庫県城崎町文芸館「シーボルト・コレクション 検証展」会期：12月12日～翌年1月25日。
- OAG ドイツ東洋文化研究協会主催「シーボルト・セミナー」（第1回：6月28日から開始。以後毎月第2月曜日開催）。
- 第215回「慶応義塾に見るシーボルト展」会期：10月25日～11月7日。主催：慶応義塾大学三田メディアセンター展示委員会。
- オランダ・ライデン市ラーペンプルフ19番地の「シーボルト・ハウス」（シーボルト旧邸宅）大規模な修復工事（設計者：オランダ在住の吉良森子氏）を経て，本格的な博物館として完成（シーボルト・コレクションの展示品はおよそ800点）。同館の中庭にライデン国立民族学博物館所蔵のシーボルト胸像（製作者：ヘラルド・ファン・レイデン）を基に造られた「シーボルト像」が建立される。その周辺にはシーボルトゆかりの日本植物（オオバギボウシ，ヤツデ，アジサイ，フッキ



【図123】

シーボルト・ハウスの中庭にある「シーボルト像」と彼のゆかりの日本植物

ソウ、ミヤマシキミ、イカリソウ、シュウメイギクなど）が植栽される。

2005年（平成17年）

- 長崎シーボルト記念館：第17回特別展「幕末の蘭学者—大村益次郎展」会期：1月28日～2月27日。
- 「川が育んだ日本の伝統文化展：日本の心と形／シーボルトの眼」岐阜県美術館。会期：8月27日～10月23日。主催：岐阜県、岐阜県美術館主催。
- 麦わら細工伝承館「復刻！シーボルト・コレクション」会期：12月1日～翌年3月28日。主催：麦わら細工伝承館（兵庫県豊岡市城崎温泉）。
- 九州大学付属図書館・福岡県立図書館相互協定記念「シーボルトがみた日本—『NIPPON』『日本植物誌』『日本動物誌』そして福岡の人々—」アクロス福岡2階交流ギャラリー。会期：2月8日～13日。主催：九州大学附属図書館、福岡県立図書館。
- 2005年度九州大学総合研究博物館公開講演会 全体テーマ「シーボルトが集めたニッポン」九州大学箱崎キャンパス50周年記念講堂4階大会議室。会期：11月13日。主催：九州大学総合研究博物館。
- 国際学士院連合関連事業・日本関係海外史料研究、国際研究集会「ティツィングとシーボルト—オランダ語史料から採る人物史研究—」東京大学総合研究博物館ミュージアムホール。会期：11月25日。
- 第52回津山洋学資料館文化講演会（春季）「シーボルトと幕末日本をめぐる国際情勢」津山国際ホテル。会期：5月8日。主催：津山教育委員会 津山洋学資料館 後援：津山洋学資料館友の会。

2006年（平成18年）

- 日独シーボルト・シンポジウム『シーボルトの全体像を探る』—その現代的意義—。OAGハウス・ドイツ文化会館。会期：3月1日～3日。主催：日独シーボルト・シンポジウム実行委員会、共催：東京ドイツ文化センター、OAGドイツ東洋文化研究協会、東洋文庫、日本技術史教育学会。
- 長崎シーボルト記念館：第18回特別展「シーボルトと伊東昇迪展」会期：2月21日～3月21日。

- 長崎シーボルト記念館：第19回特別展「シーボルトと下関の阿蘭陀宿展」会期：8月24日～9月24日。
- 教祖120年祭・開館76周年記念展「江戸時代の西洋学」天理図書館。会期：10月19日～11月12日。主催：天理大学。

2007年（平成19年）

- 特別展示「川原慶賀」長崎県立長崎図書館講堂。会期：3月6日～3月19日。主催：長崎歴史文化博物館（2階常設展示室歴史文化展示ゾーン）：シンポジウム「シーボルトの絵師川原慶賀」会期：3月11日）
- 特別企画展「シーボルトの水族館」長崎歴史文化博物館3階企画展示室。会期：7月7日～9月2日。主催：長崎歴史博物館。オープニング記念講演会「シーボルトの水族館関連講演会」同館1階ホール。会期：7月7日および7月28日。
- 長崎シーボルト記念館：第20回特別展「シーボルトと蘭学大名展」～西洋に魅せられた殿様たち～会期：11月1日～12月2日。
- 特別展軈まるごと博物館「軈の町並みと商家の賑わい～シーボルトも称賛～」福山市軈の浦歴史民俗資料館。会期：10月12日～11月25日。

2008年（平成20年）行事

- 『『小シーボルトと岡村吉衛門展』～小シーボルトとアイヌ，岡村吉衛門と型染絵蝦夷シリーズ～』会期：1月14日～20日。OAGハウス・東京ドイツ文化会館。ロビー：アイヌ研究の草分けであるハインリッヒ・シーボルト（大シーボルトの二男）の没後100年を回顧する。主催：社団法人OAGドイツ東洋文化研究協会。
- ハインリッヒ・フォン・シーボルト没後100年国際シンポジウム『『小シーボルトの業績』～日本の民族学的研究と日本研究におけるコレクションの役割～』法政大学市ヶ谷キャンパス ポアソナード・タワー26階スカイホール。会期：3月1日～3月2日。主催：法政大学国際日本学研究所。
- 箱根ラリック美術館 企画展『ラリックに咲いたシーボルトの「和の花」』箱根ラリック美術館企画展示室。会期：4月19日～11月24日。出展資料：シーボルトコレクション（シーボルトが採集した日本の植物標本）明治期，海外向けに製作された日本の花のカタログなど約30点。監修：東京大学名誉教授大場秀章。協力：首都大

学東京 牧野標本館・箱根町立郷土資料館・箱根町立箱根湿性花園・横浜開港資料館。

- 特別展『北斎―シーボルトの見た日本―』（4月5日～5月18日）山口県立萩美術館・浦上記念館主催。会期：12月4日～翌年1月27日。江戸東京博物館で実施されていたものと同じ展示。主催：山口県立美術館・浦上記念館，毎日新聞社，tyt テレビ山口。後援：オランダ王国大使館，フランス大使館，萩市。学術協力：オランダ国立民族学博物館，フランス国立図書館。
- ハインリッヒ・シーボルト没後100年記念事業『WHO IS HEINRICH SIEBOLD 展』文京シビックセンター・スカイホール。会期：8月11日。企画展示，記念講演&対談：記念講演『シーボルト父子と日本』。東京都北区，中央工学校。会期：10月13日。会場：記念講演『ハインリッヒ・シーボルトと日本』大田区民ホール・アブリコ。会期：12月21日。記念講演『E.S.モースとハインリッヒ・フォン・シーボルト』主催：日本シーボルト協会設立準備委員会。後援：オーストリア大使館，ドイツ連邦共和国大使館，外務省，東京都（北区，大田区），青梅市。協力：(社)日本国際青年文化協会，長崎シーボルト記念館，大田区立郷土博物館，青梅市ポップアート友好協会。
- 横浜開港資料館・平成20年度第3回企画展示『港町 百花繚乱』―横浜から広がる「緑化」文化―（10月29日～21年1月25日）：『百花繚乱』展，記念講座『シーボルトが観察した横浜の自然と人々の生活』。主催：横浜開港資料館。共催：横浜市教育委員会。後援：朝日新聞横浜総局／神奈川新聞社／毎日新聞横浜支局／読売新聞東京本社横浜支局。協力：横浜植木株式会社。
- 日本シーボルト協会設立準備委員会発足。

2009年（平成21年）行事

- 長崎シーボルト記念館：第21回特別展「シーボルトとお茶展～長崎と茶の湯文化～」会期：1月30日～3月22日。
- 長崎シーボルト記念館：第22回特別展「日高涼台の世界～シーボルトに学んだ蘭方医～」会期：9月16日～11月15日。

2010年（平成22年）行事

- 日蘭通商400周年記念展「阿蘭陀と NIPPON～レンブラントからシーボルトまで～」
長崎会場：10月31日～翌年1月11日。会場：長崎歴史文化博物館。主催：長崎歴史文化博物館・たばこと塩の博物館・オランダ王国大使館・KTN テレビ長崎・西日本新聞社。助成：財団法人地域創造。協力：海と船の博物館ネットワーク。東京会場：4月24日～7月2日。「阿蘭陀と NIPPON」展示関連講演会。会期：5月23日。講演「異文化理解としての川原慶賀ーシーボルトの眼になった絵師ー」。会期：6月13日講演「日蘭交流のなかの人物ーケンペルからカッテンディーケヘー」) たばこと塩の博物館。主催；たばこと塩の博物館・長崎歴史文化博物館・オランダ王国大使館・東京新聞。中部会場：岡崎市美術博物館。会期：7月17日～8月29日（日）。主催：岡崎市美術博物館・長崎歴史文化博物館・オランダ王国大使館・中日新聞社。
- 財団法人日蘭学会設立35周年記念式典・懇談会および第11回「総会」ホテルオークラ東京本館1階コンチネンタルルーム。会期：1月10日（日）。小講演：「日本で最も有名なオランダ人」ーシーボルト・ハウスの収蔵品ー, 「オランダに渡った日本の植物たちの今日」。
- 長英の功績に迫る, 奥州で没後160年記念展「シーボルトと高野長英展」奥州市水沢区横町メイプル4階。会期：3月25日～4月6日。
- 小野蘭山没後二百年記念公開シンポジウム「日本の本草博物学と小野蘭山」東京大学弥生講堂。会期：6月20日。講演：「シーボルトコレクションに残された小野蘭山の標本について」。主催：小野蘭山没後二百年記念事業会。
- 長崎シーボルト記念館：第23回特別展「シーボルトと幕末英雄（ヒーロー）展」会期：7月16日～9月20日。
- 2010年度洋学史学会大会。津山洋学史料館 GENPO ホール（岡山県津山市西新町）。会期：12月11日～12日。会長講演「本邦における温泉水化学分析の展開ーシーボルト, ビュルガーから宇田川榕菴への流れー」, 一般発表：「シーボルトコレクション中にある M.アルプレヒトの採集品」, 「宇田川榕菴とシーボルト」, 「川原慶賀《日本人の一生》の制作について」, 「シーボルト『NIPPON』の原画・版下・製版」, 町泉寿郎「シーボルトの針灸関係資料について」など。
- 長崎シーボルト記念館：第24回特別展「ハインリッヒ・シーボルト展～関口家所蔵

パネルを中心に〜」。会期：12月23日～翌年1月23日。

2011年（平成23年）行事

- 長崎シーボルト記念館：第25回特別展「シーボルトとオランダ貿易展」。会期：9月23日～11月6日。
- 津山洋学資料館：文化講演会「プラントハンターの活躍～日本からヨーロッパに運び出された植物～」津山洋学資料館 GENPO ホール。会期：日時：1月30日。講演「食糧・香料・薬・繊維に利用される有用植物や観賞用植物の新種を求め世界中を探検・冒険したプラントハンター。その先駆者、シーボルトの知られざる素顔と花に秘めた物語！」。主催：津山洋学資料館。
- 日独シーボルト・シンポジウム2011（日独交流150周年記念）『シーボルトの知的遺産と日独ソリダリティー』OAGハウス・ドイツ文化会館。会期：10月18日～20日。「シーボルトをめぐる人々—東と西—」, 「シーボルトの弟子たちの外国語の論文」, 「絵師川原慶賀とシーボルト」, 「失われたシーボルト資料」, ラウンドテーブル・ディスカッション『シーボルト研究の新しいネットづくり』, 「ドイツ学術交流会の使命と活動」, 「アレキサンダー・フォン・シーボルト—生涯と日本近代化への貢献—」, 「お雇い外国人アレキサンダー・フォン・シーボルト」, 「シーボルト情報



〔図124〕日独シーボルト・シンポジウム2011（日独交流150周年記念）パンフレットの一部分と講演するフォン・ブランデンシュタイン・ツッエペリン博士

と幕末米国の新聞」, 「日露戦争とアレキサンダー・フォン・シーボルト」, ラウンドテーブル・ディスカッション『アレキサンダー・フォン・シーボルトとその時代』。総括: 「日独交流の150年とソリダリティー」。講演「自然科学者としてのシーボルト」, 「医学者としてのシーボルト」, 「フローラ・ヤポニカ及びファウナ・ヤポニカ出版の意義」, 「ドイツの知的遺産と文化活動」, 「そして、全ての流れは躍進する—日独交流の150年—」, 日独ラウンドテーブル・ディスカッション『日独ソリダリティーへの提言』。主催: 日独シーボルト・シンポジウム実行委員会。共催: 東京ドイツ文化センター, (社)OAG ドイツ東洋文化研究協会, DAAD ドイツ学術交流会, (財)東洋文庫, ルール大学ボッホム, ヴェルツブルグ・シーボルト博物館, ブランデンシュタイン城シーボルト博物館。協力: 多摩美術大学美術館。後援: ドイツ連邦共和国大使館。

- 第5回シーボルト・コレクション国際会議: 滋賀県立琵琶湖博物館・大津市民会館。会期: 10月28日～10月30日。公開講座: 「ビュルガー, ホフマンらのシーボルトコレクション形成への貢献」, 「ビュルガーの魚類標本の積み出しリストの意義」, 「日本の動植物研究におけるビュルガーの貢献」, 「ホフマンと日本の植物学の普及」, 「ビュルガーからの手紙『親愛なる閣下そして尊敬する友へ』」, 「日本の軟体動物学におけるシーボルトコレクションの重要性」, 「シーボルト・ビュルガーの地質学と鉱物学の足跡」, 「シーボルト標本の復元的研究と“日本博物館”の再現」, 「モースコレクションとピボディ・エセックス博物館の現状と課題, そして展望」, 「ライデン国立民族学博物館蔵川原慶賀『人の一生』(シーボルトコレクション本)について」, 「蒐集の旅としての江戸参府とそのロジティクス」, 「ボーフム・ルール大学のシーボルトコレクション: 再構築, 現状, および将来の可能性/好機」, 「ライデン(1820年代)とミュンヘン(1860年代)における麦わら細工のシーボルトコレクション」, 「ジョマールとフォン・シーボルト—分類の原理についての議論」, 「1864年のヴェルツブルグ初のシーボルト展: バイエルンにおける民族学の始まり」, 「選択: ライデンにおけるシーボルトコレクションの展示」, 「博物学者としてのシーボルト像を探る」, 「シーボルトの助手ビュルガー: にほんにおける唯一人の水成論者」, 「シーボルトの博物コレクションとその学術的意義」。主催: シーボルト・コレクションネット・プロジェクト, 人間文化研究機構日本関連在外資料調査研究プロジェクト, 後援: 公益財団法人東芝国際交流財団, 大学共同利用機関法人人間研

究機構，滋賀県，大津市，草津市，シーボルト協会（ヴェルツブルグ），シーボルト博物館（ライデン），シーボルト記念館（長崎），オランダ王国大使館，ドイツ連邦共和国総領事館（大阪・神戸）びわこビクターズビューロー。

- 11月8日，蘭方医・二宮敬作，NHK大河ドラマ誘致実行委員会「ケイサキーの会」発足。愛媛県西予市卯之町中町集会所。
- 科研共同研究成果報告会：幻の「シーボルト日本博物館」を追って（第1部個別報告・第2部パネルディスカッション）。長崎歴史文化博物館1Fイベントホール（長崎市立山町）。会期：12月3日。主催：長崎純心大学比較文化研究所。共催：人間文化研究機構国立歴史民俗博物館，長崎市シーボルト記念館。

2012年（平成24年）行事

- 大森貝塚135周年：第25回文化フォーラム「大森貝塚とハインリッヒ・フォン・シーボルト」入新井集会室（Luz大森4階）。会期：9月16日。
- 平成24年度「Von Siebold, 牧野富太郎 植物に魅せられた二人―シーボルトと牧野富太郎の植物標本―」牧野富太郎生誕150年記念。津山洋学資料館。会期：10月6日～12月20日。主催：津山洋学資料館，首都大学東京附属機関牧野標本館協力企画。
- シーボルト記念館：第25回特別展「シーボルトと二宮敬作」会期：10月5日～11月25日。

完